

平成 18 年 2 月の地震活動及び火山活動について

[地震活動]

震度 5 弱以上を観測した地震及び津波を観測した地震はありませんでした。

全国で震度 1 以上が観測された地震の回数は 81 回、日本及びその周辺における M 4 以上の地震の回数は 74 回でした。

国土地理院の GPS 観測結果では、東海地域及びその周辺における長期的な地殻変動は、最近は小さくなっているように見えます。

震度 3 以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙 1 のとおりです。また、世界の主な地震は別紙 2 のとおりです。

[火山活動]

噴火が観測されたのは、三宅島、桜島及び諏訪之瀬島でした。このうち最も活動が活発であったのは諏訪之瀬島で、6～9 日及び 23 日に小規模な爆発的噴火が多発しました。諏訪之瀬島ではこのような活動が繰り返されており、火山活動は活発な状態が続いています。桜島では爆発的噴火が 3 回観測されましたが、桜島の噴火活動としては比較的静穏な状態が続いています。三宅島では、17 日にごく小規模な噴火が発生し、山麓でごく微量の降灰がありました。三宅島で噴火が観測されたのは 2005 年 5 月のごく小規模な噴火以来です。二酸化硫黄を含む多量の火山ガスの放出は依然として続いています。

雌阿寒岳では 18～19 日に地震が多発しました。地震の発生回数はその後減少したものの、やや多い状態が続いており、火山活動はやや活発な状態です。

浅間山では、上旬まで地震の多い状態が続き、火山ガスの放出量もやや多く、微弱な火映も観測されました。火山活動はやや活発な状態が続いています。

霧島山新燃岳で 2 月 1 日に振幅のやや大きな微動が観測されました。火山活動はやや活発な状態が続いています。

日本の主な火山活動の概況は別紙 3 のとおりです。また、世界の主な火山活動は別紙 4 のとおりです。

注 1：国土地理院の GPS による地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成 18 年 1 月～平成 18 年 2 月の地殻変動について」を参照ください。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/index.html>

注 2：気象庁の地震活動資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています。

注 3：地震活動および火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編) 2 月号(3 月末頃に気象庁ホームページ掲載予定)をご覧ください。

注 4：平成 18 年 3 月の地震活動及び火山活動については、平成 18 年 4 月 10 日に発表の予定です。

2006年2月の主な地震活動^{注1)}

番号	月 日	時 分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	備考 / コメント
1	2月1日	12時15分	伊予灘	46	4.3	3	フィリピン海プレート内部で発生した地震
2	2月1日	20時35分	千葉県北西部	101	5.1	4	太平洋プレート内部(二重地震面の下面)で発生した地震
3	2月3日	13時37分	茨城県沖	62	5.9	3	太平洋プレートの沈み込みに伴う地震
4	2月4日	0時11分	天草灘	12	5.1	4	地殻内で発生した地震
5	2月13日	17時23分	山形県庄内地方	9	4.8	3	内陸の浅い地震
6	2月16日	23時10分	岐阜県美濃中西部	14	4.4	4	内陸の浅い地震
7	2月17日	11時13分	父島近海	196	6.0	1	太平洋プレート内部で発生した地震
8	2月18日	16時21分	岐阜県美濃中西部	13	4.1	4	内陸の浅い地震 (6の地震とほぼ同じ場所で発生)

注1)「主な地震活動」とは 陸域でM4.0以上かつ震度3以上地震、 海域でM5.0以上かつ震度3の地震、
M6.0以上の地震、 以前に取り上げた地震活動で、活動が継続しているもの。

その他の活動^{注2)}

月 日	時 分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	備考 / コメント
3月2日	23時28分	和歌山県北部	4	4.1	3	内陸の浅い地震

注2)「その他の活動」とは、注1)の主な地震活動の基準に該当する地震で2006年3月中に発生したものを。

・地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果

2006年2月27日に気象庁において第238回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会(定例会)を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表しました。その後も地震・地殻活動等の状況に変化はありません。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

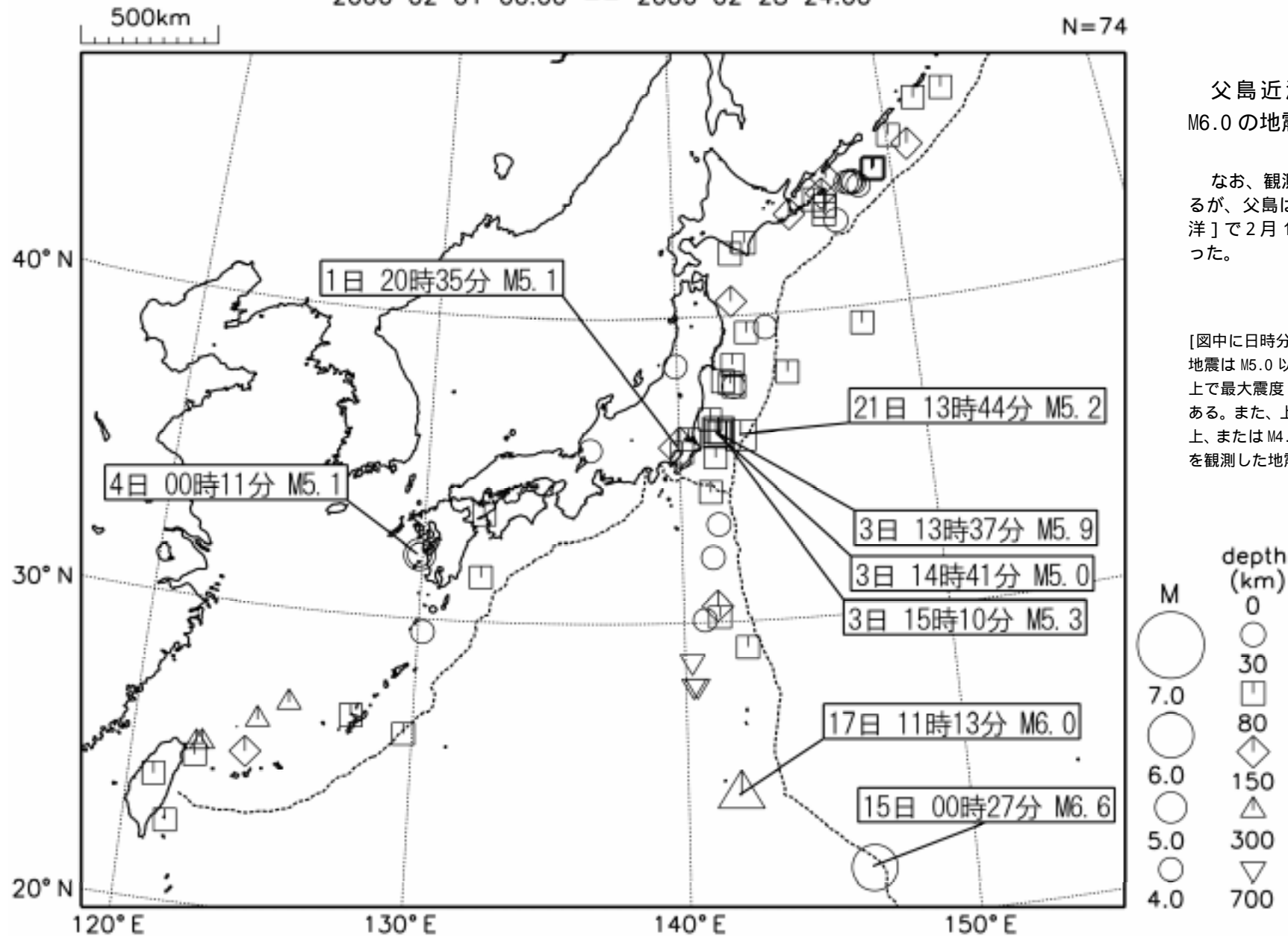
全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖直下で通常より活動レベルの低い状態が続いていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

東海地域及びその周辺における、プレート境界のゆっくり滑りに起因すると思われる長期的な地殻変動は、最近は小さくなっているように見えます。

2006年2月の全国の地震活動（マグニチュード4.0以上）

2006 02 01 00:00 -- 2006 02 28 24:00

N=74

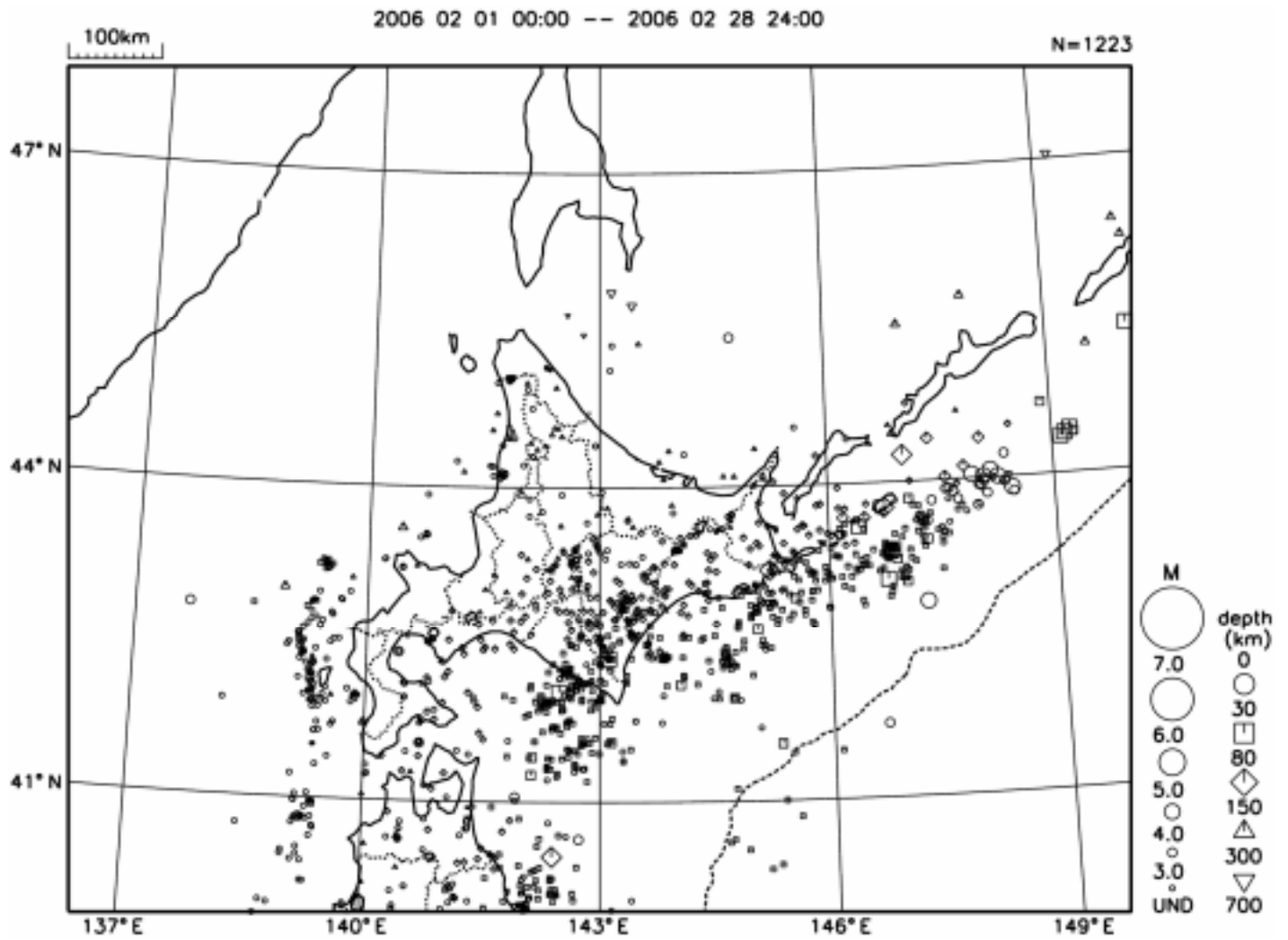


父島近海で2月17日にM6.0の地震があった。

なお、観測網からはやや外れているが、父島はるか南東沖〔北西太平洋〕で2月15日にM6.6の地震があった。

[図中に日時分、マグニチュードを付した地震はM5.0以上の地震、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。また、上に表記した地震はM6.0以上、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。]

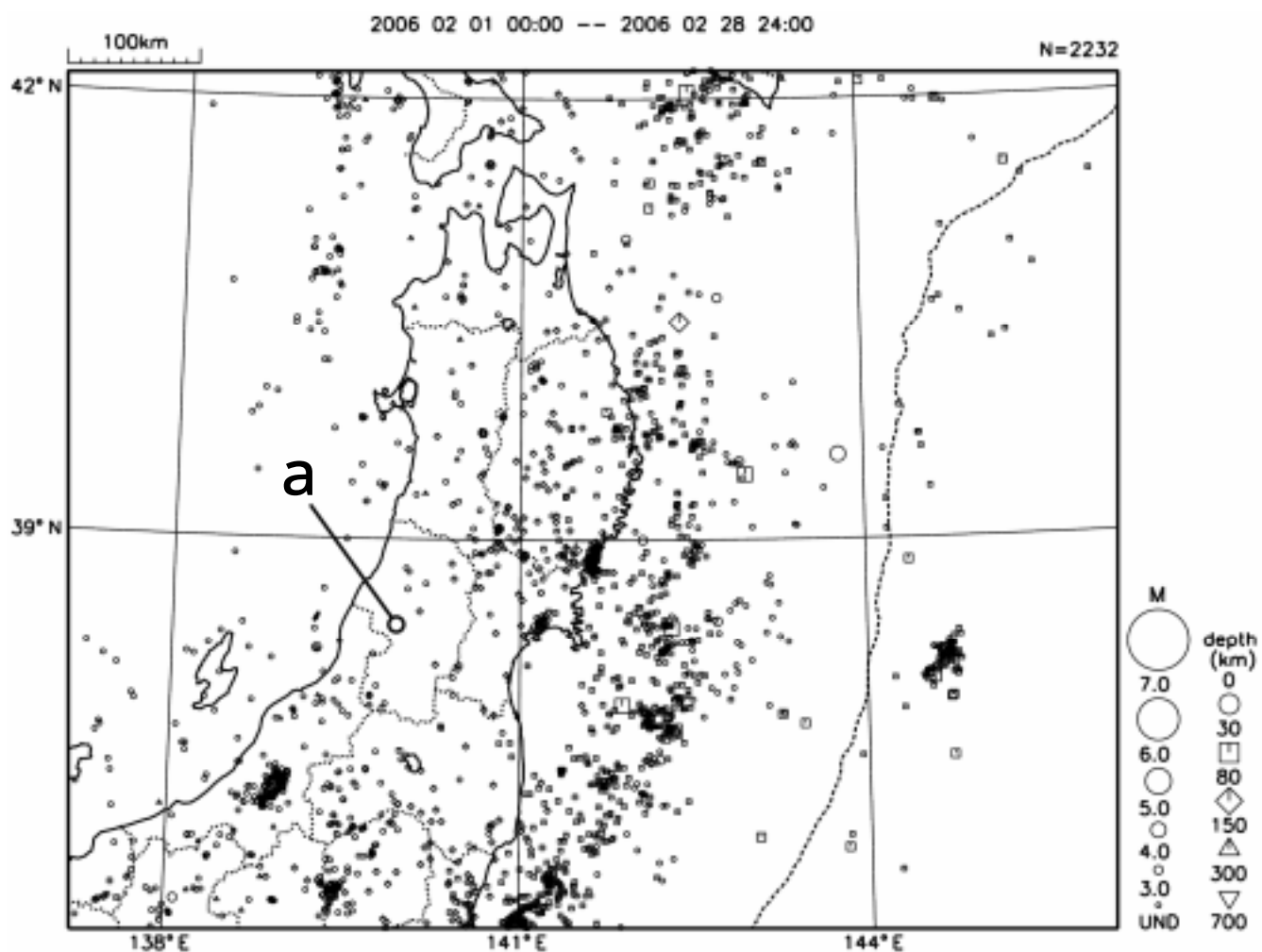
北海道地方



特に目立った活動はなかった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

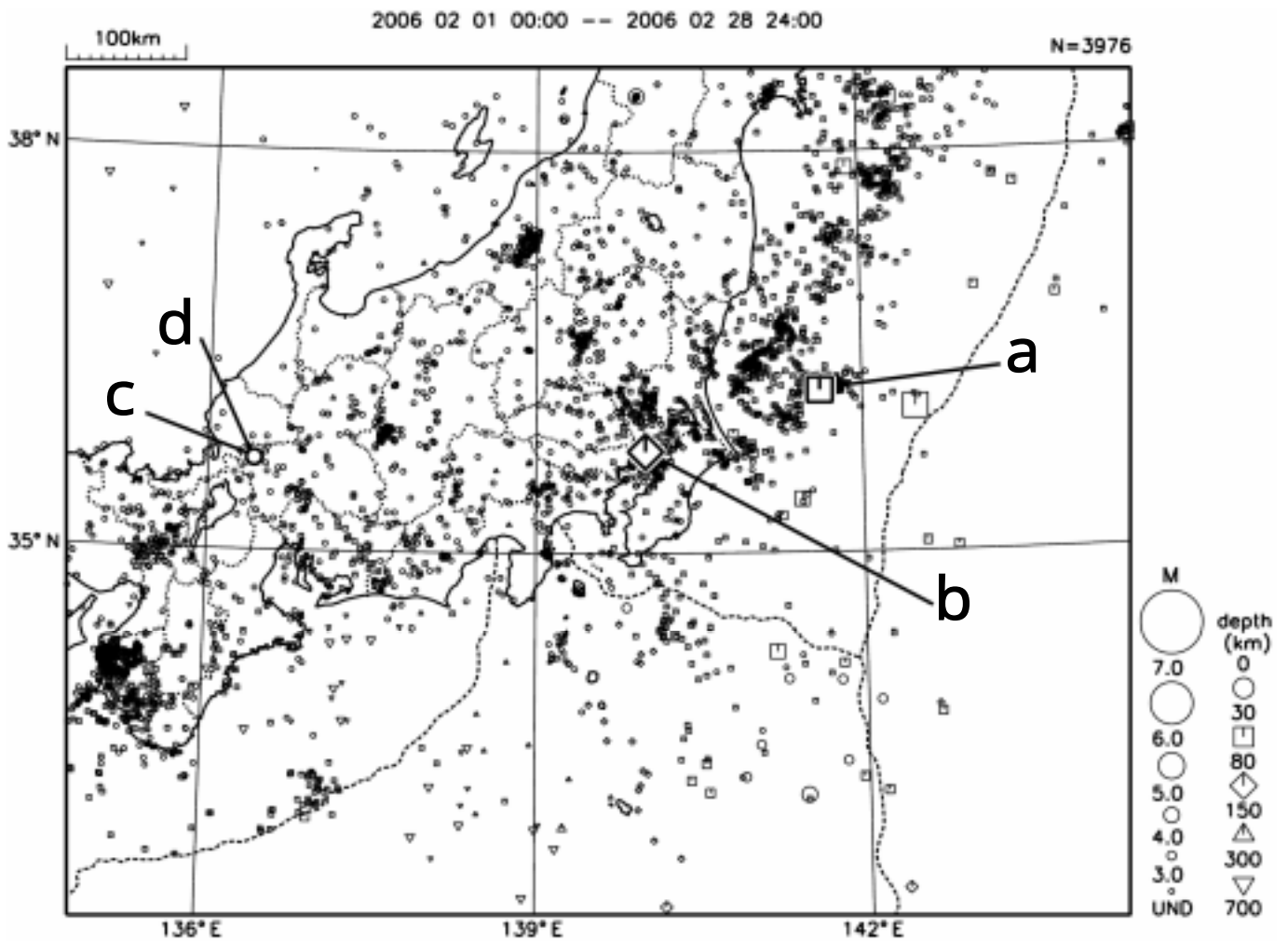
東北地方



a) 2月13日に山形県庄内地方でM4.8(最大震度3)の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

関東・中部地方

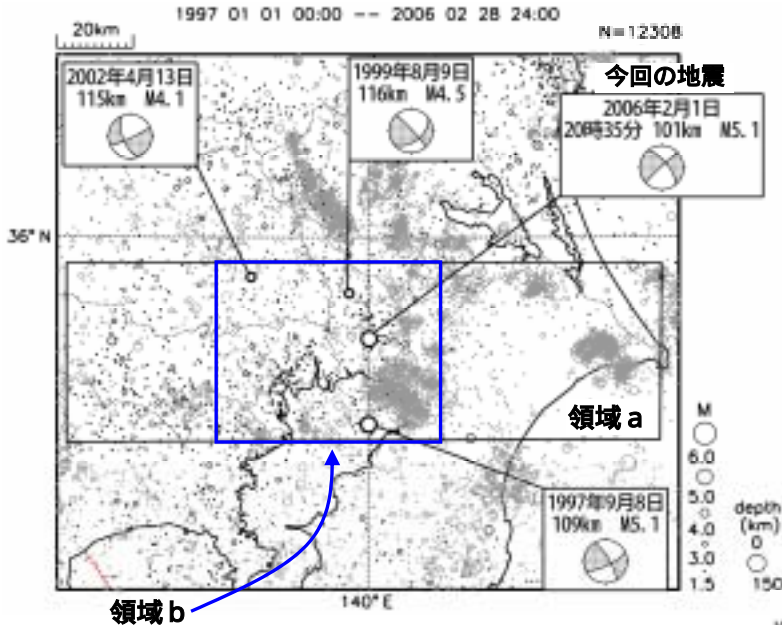


- a) 2月3日に茨城県沖で M5.9 (最大震度3) の地震があった。
- b) 2月1日に千葉県北西部で M5.1 (最大震度4) の地震があった。
- c) 2月16日に岐阜県美濃中西部で M4.4 (最大震度4) の地震があった。
- d) 2月18日に岐阜県美濃中西部で M4.1 (最大震度4) の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

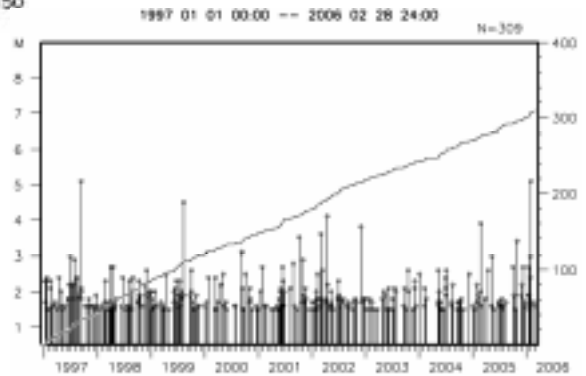
2月1日 千葉県北西部の地震

A 震央分布図 (1997年1月以降、M 1.5)
(太平洋プレート二重地震面の下面の地震を濃く表示)

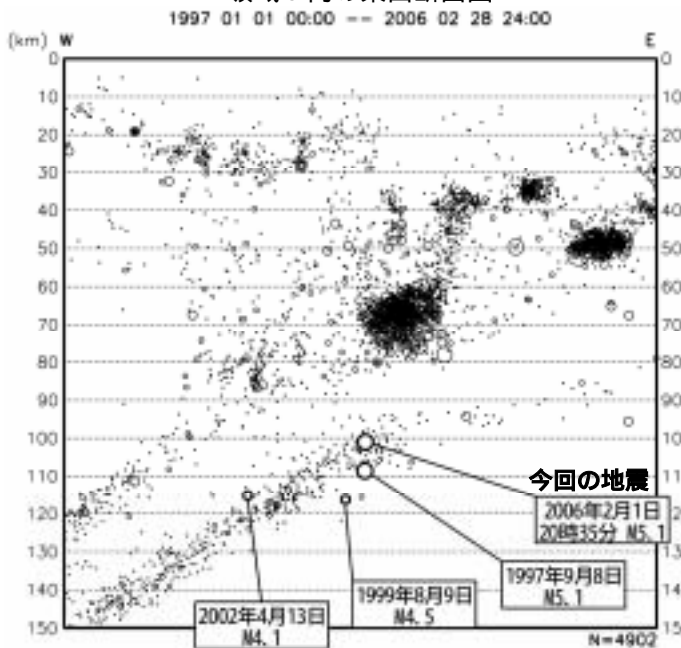


2006年2月1日20時35分に千葉県北西部の深さ101kmでM5.1 (最大震度4) の地震が発生した。発震機構は東西方向に張力軸を持つ型であり、太平洋プレート内 (二重地震面の下面) で発生した地震である。余震は発生していない。付近の二重地震面の下面の地震としては、1997年9月8日にM5.1 (最大震度3) の地震が発生している。(**A**)

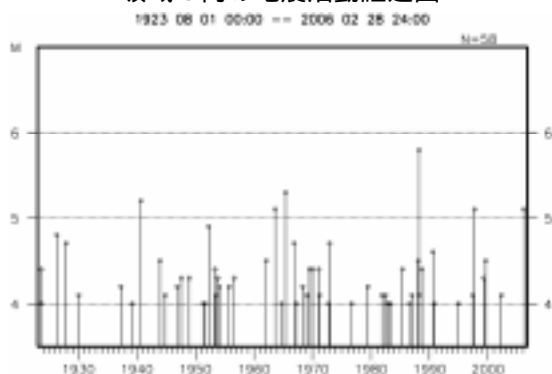
領域b内の地震活動経過図、回数積算図
(二重地震面の下面の地震のみ)



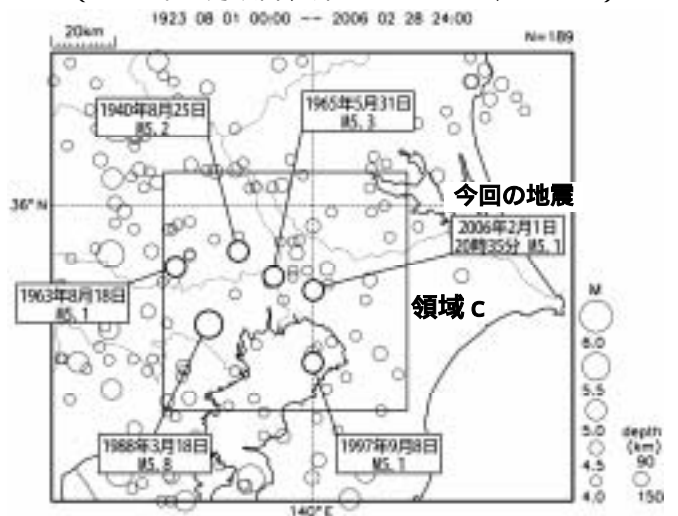
領域a内の東西断面図



領域c内の地震活動経過図



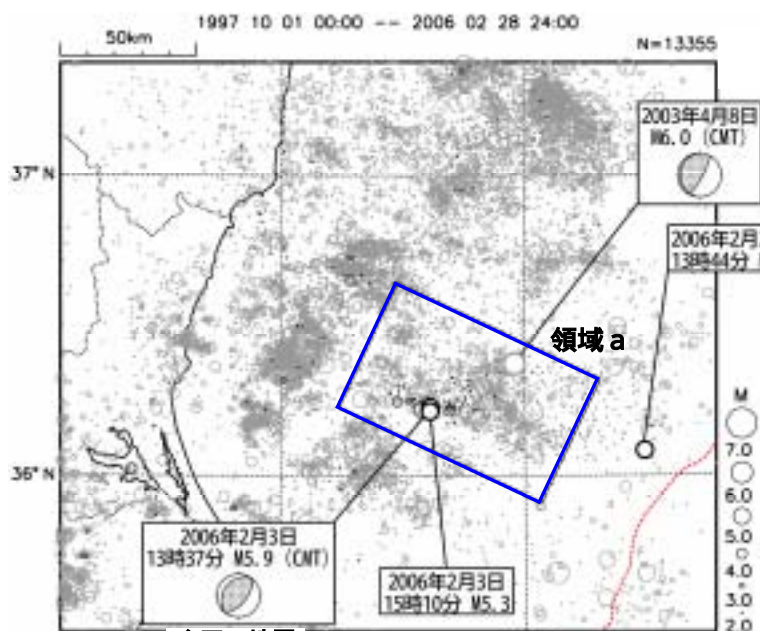
B 震央分布図
(1923年8月以降、深さ90~150km、M 4.0)



1923年8月以降、今回の地震の震源付近ではM5.0以上の地震が6回観測されている。最大は、1988年3月18日のM5.8 (最大震度4) の地震である。(**B**)

2月3日 茨城県沖の地震

A 震央分布図 (1997年10月以降、M 2.0)

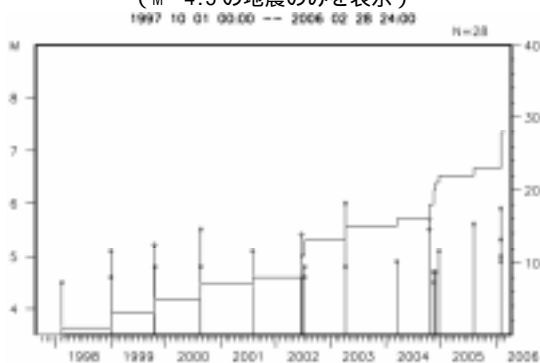


今回の地震

(2006年2月3日以降の地震を濃い で表示した)

領域a内の地震活動経過図、回数積算図

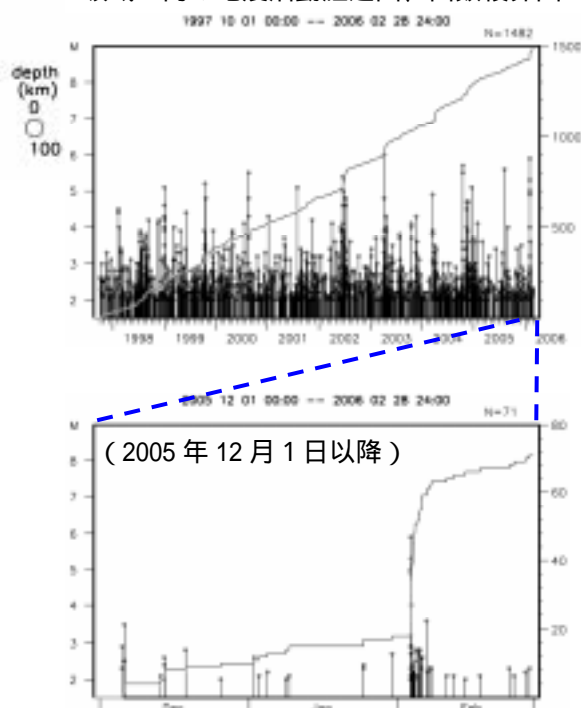
(M 4.5の地震のみを表示)



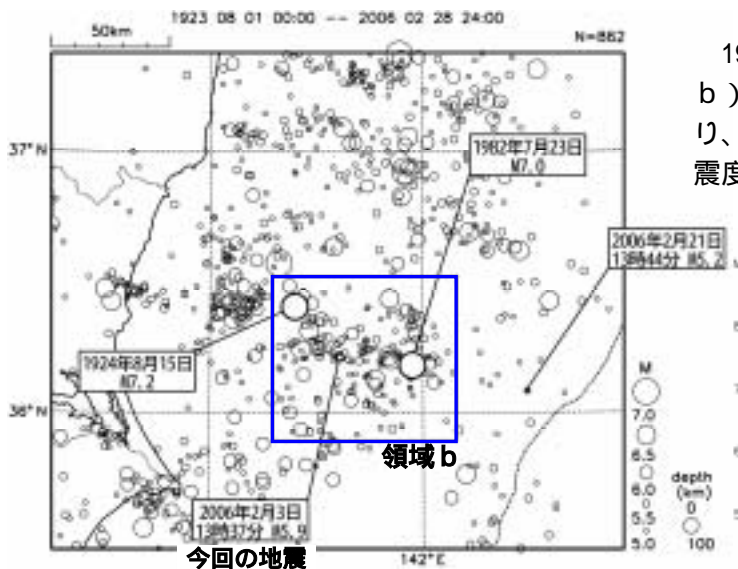
2006年2月3日13時37分に茨城県沖でM5.9(最大震度3)の地震が発生した。発震機構(CMT解)は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートの沈み込みに伴う地震である。余震活動は、3日15時10分にM5.3(最大震度2)の地震が発生するなど、本震の直後にM5.0前後の地震が4回発生したが、その後次第に減衰してきている。今回の地震の震源付近では、M5.0~6.0クラスの地震が年に1回程度発生している。

(A)

領域a内の地震活動経過図、回数積算図



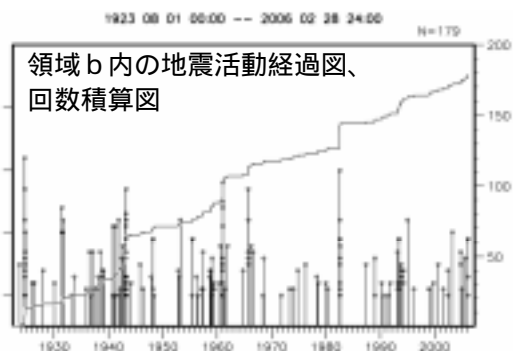
B 震央分布図 (1923年8月以降、M 5.0)



今回の地震

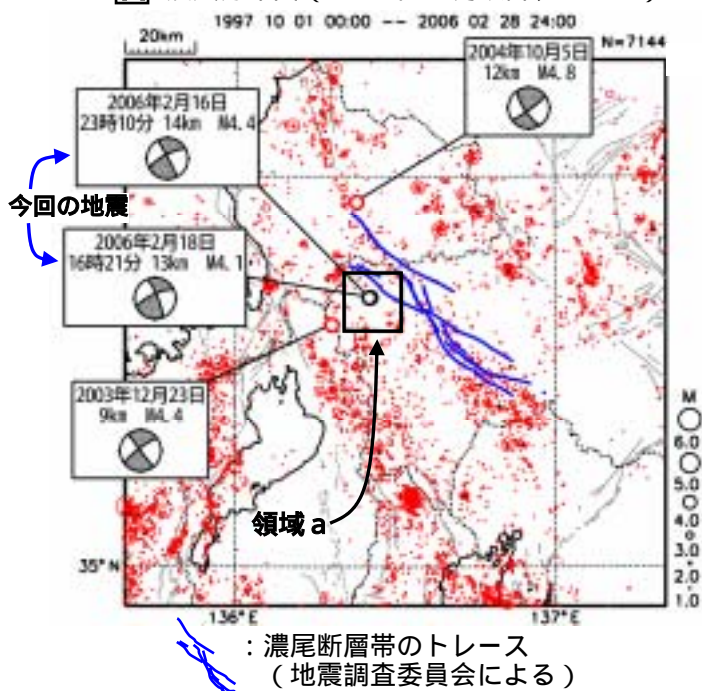
1923年以降、今回の地震の震央付近(領域b)ではM7.0以上の地震が2回観測されており、最近では1982年7月23日にM7.0(最大震度4)の地震が発生している。(B)

領域b内の地震活動経過図、回数積算図

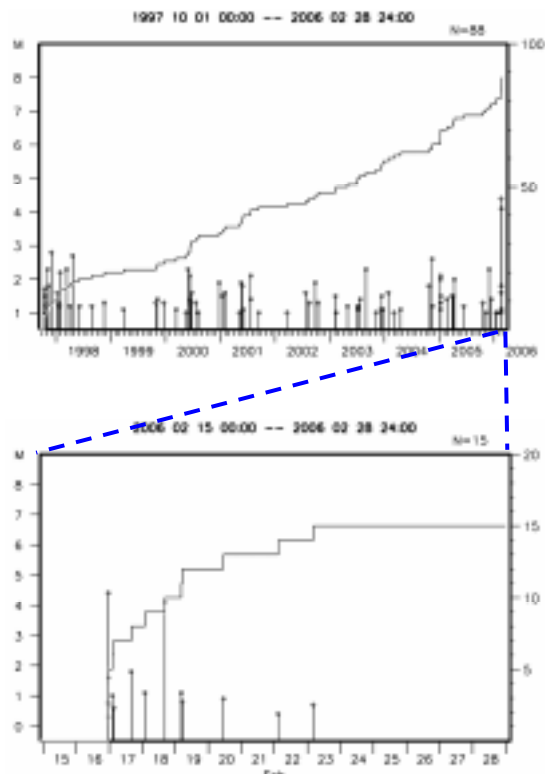


2月16日、18日 岐阜県美濃中西部の地震

A 震央分布図 (1997年10月以降、M 1.0)



領域 a 内の地震活動経過図、回数積算図

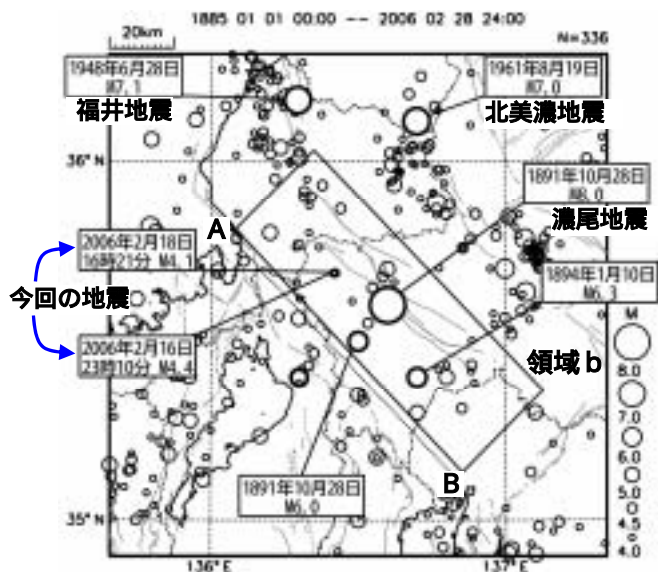


余震活動の状況
(2月15日~28日、Mすべて)

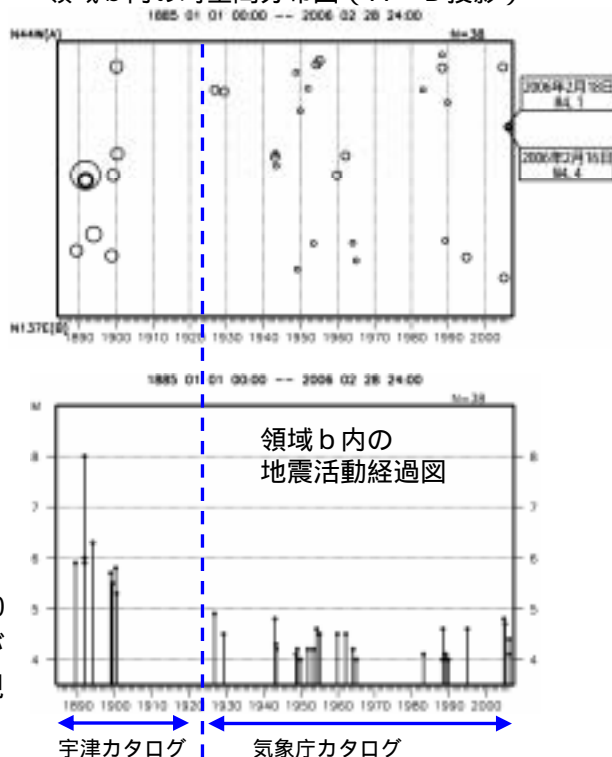
2006年2月16日23時10分に岐阜県美濃中西部の深さ14kmでM4.4(最大震度4)の地震が発生した。余震活動は低調であったが、18日16時21分にもM4.1(深さ13km、最大震度4)の地震が発生した。発震機構はいずれも西北西-東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、付近では良く見られるタイプである。

今回の地震の震源付近には濃尾断層帯がある。(**A**)

B 震央分布図 (1885年以降、M 4.0)



領域 b 内の時空間分布図 (A - B 投影)



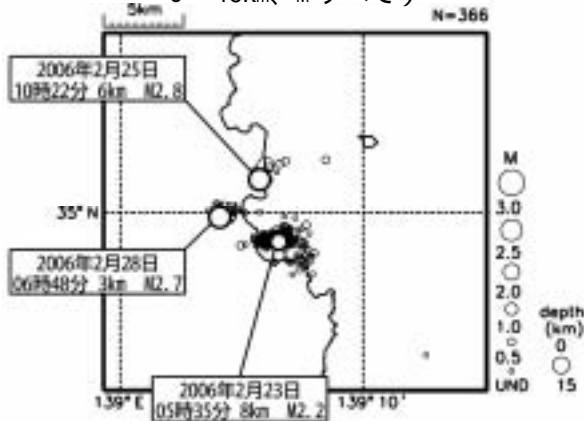
今回の地震の震央付近では、1891年10月28日にM8.0の地震(濃尾地震)が発生するなど、M6.0以上の地震が3回発生しているが、1923年以降では、M5.0を超える規模の地震は発生していない。(**B**)

伊豆半島東方沖の地震活動

2006年2月19日頃から伊豆半島東方沖で小規模な地震活動が始まり、21日から断続的に活発化した。この間、東伊豆の気象庁体積歪計に 8×10^{-8} 程度の縮み変化が現れた。これまでの最大の地震は25日10時22分に発生したM2.8(最大震度2)の地震である。28日には5km以浅での活動が一時的に活発化し、06時48分にM2.7(最大震度2)の地震が発生している。一連の活動は3月2日に収まった。本地域では先月25日から31日にもまとまった活動(M1.1の地震が最大)が発生している。

震央分布図

(2006年2月19日～3月5日、
0～15km、Mすべて)



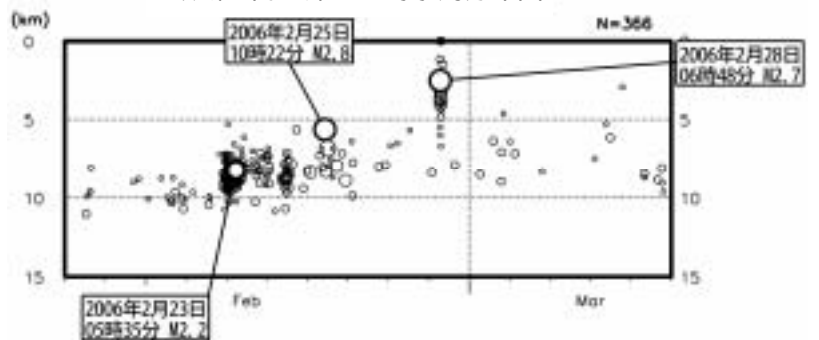
領域 a 内の南北断面図



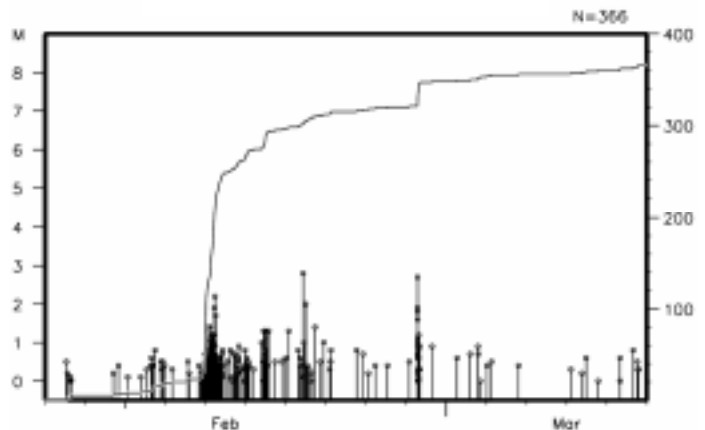
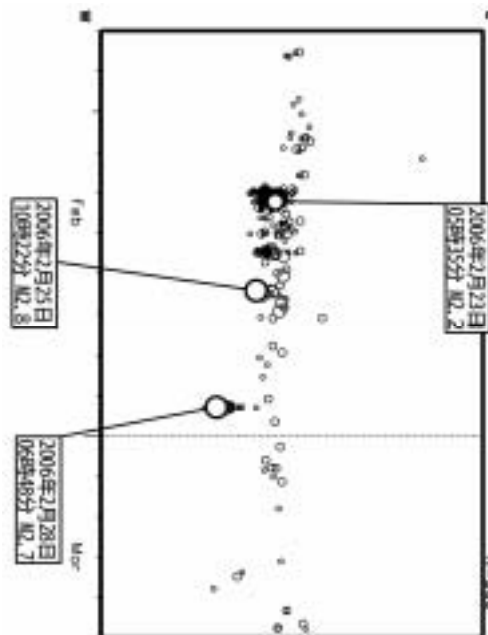
領域 a 内の東西断面図



領域 a 内の深さの時系列分布図



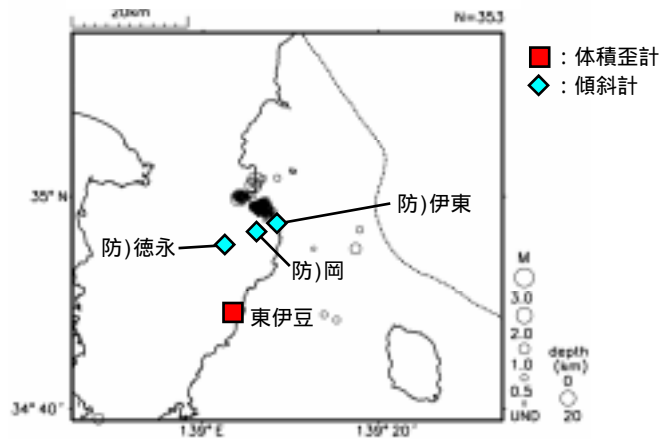
領域 a 内の地震活動経過図、回数積算図



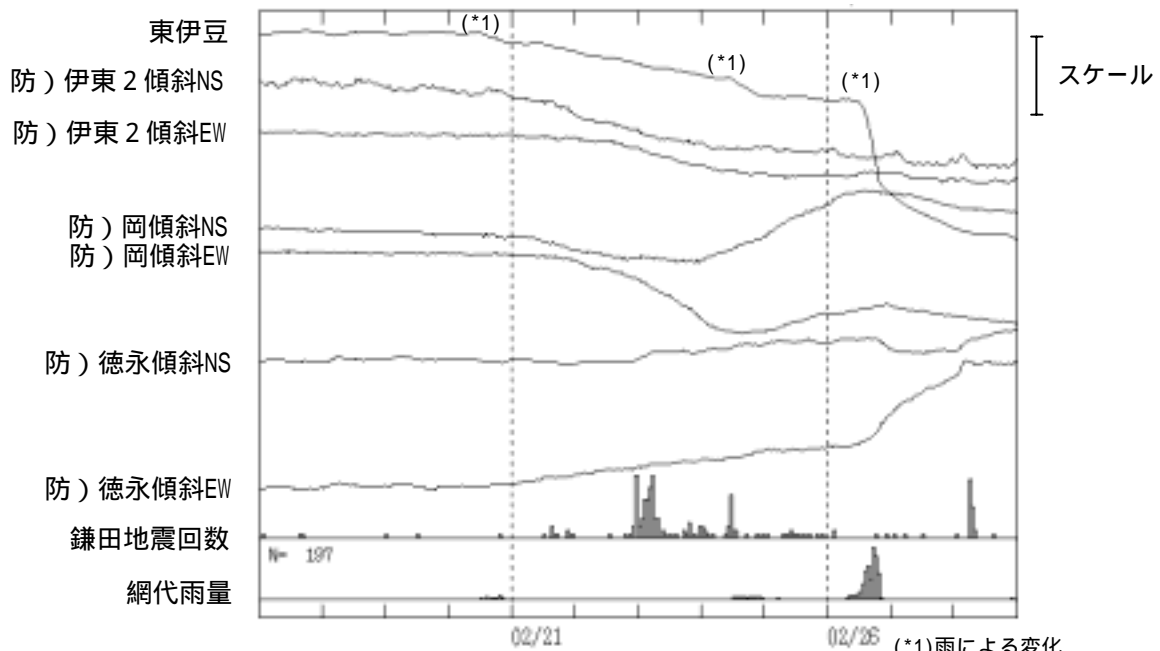
領域 a 内の時空間分布図 (東西方向)

伊豆半島東方沖の地震活動に伴う歪計および傾斜計の変化

歪計および傾斜計の位置と震央分布図



歪計および傾斜計の変化と鎌田の地震回数
(2006年2月17日~28日)



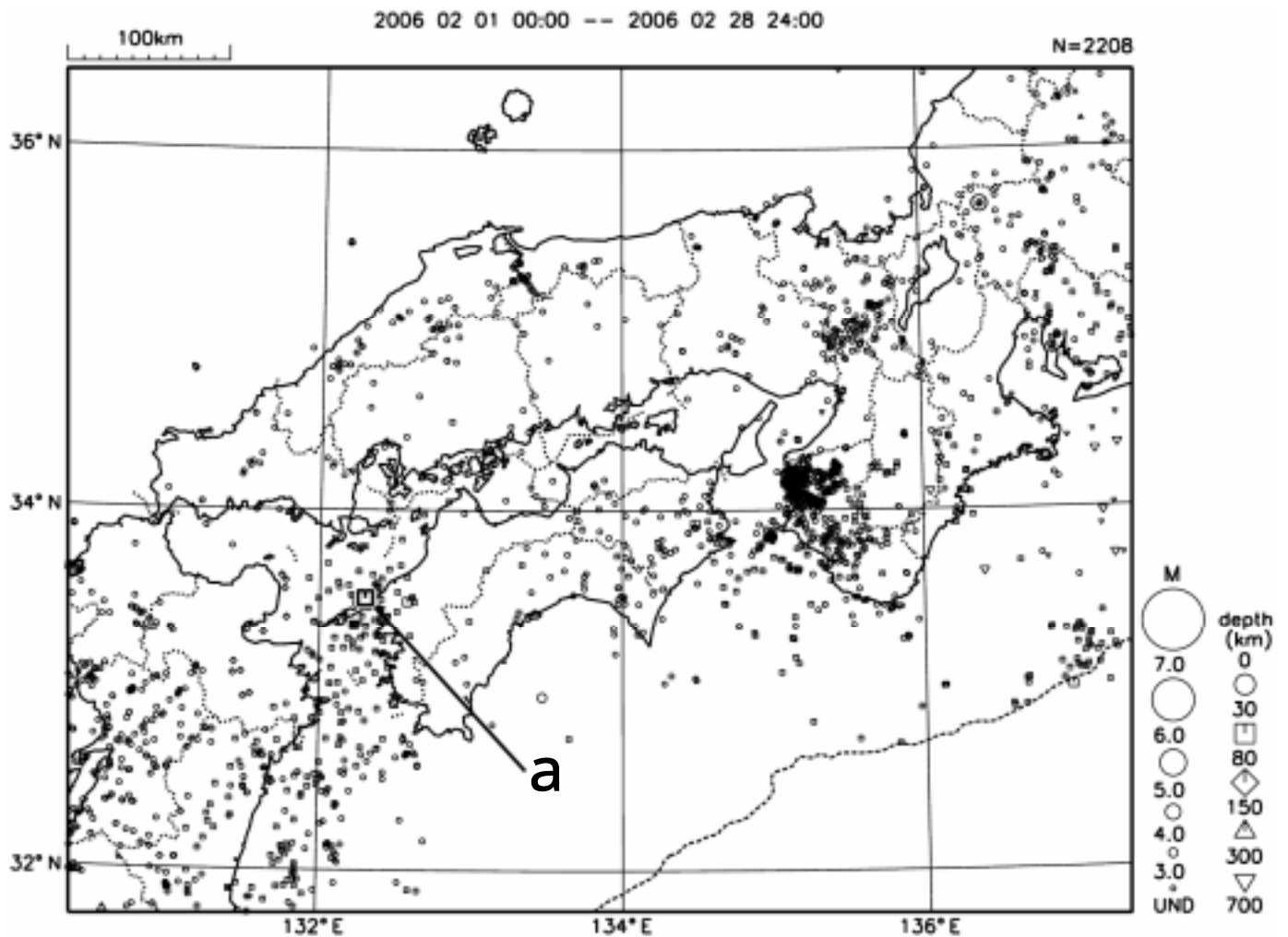
歪計および傾斜計の変化のグラフにおいて、縦軸のスケールは、 10^{-7} (歪)、 5×10^{-7} (傾斜)、20回/時間 (地震回数)、50mm/時間 (雨量) を示す。

地点	今回 (2/21 12時 ~ 2/26 10時) の変化量		
	2/21 12時 ~ 22日 21時	22日 21時 ~ 26日 10時	計
東伊豆 LP	-2.4×10^{-8}	-5.2×10^{-8}	-7.6×10^{-8}
防)伊東 2 傾 NS	-1.4×10^{-7}	-0.8×10^{-7}	-2.2×10^{-7}
防)伊東 2 傾 EW	-0.6×10^{-7}	-2.0×10^{-7}	-2.6×10^{-7}
防)岡傾 NS	-1.3×10^{-7}	$+4.3 \times 10^{-7}$	$+3.0 \times 10^{-7}$
防)岡傾 EW	-1.3×10^{-7}	-2.6×10^{-7}	-3.9×10^{-7}

2月26日10時以降は雨の影響を大きく受けているため、変化量には加えていない。

観測点名に「防)」のついている観測点は防災科学技術研究所の傾斜計を示す。鎌田地震回数は、鎌田観測点のS-P時間が6秒以下で上下動速度振幅が一定振幅以上の地震の数を表す。

近畿・中国・四国地方



a) 2月1日12時15分に伊予灘でM4.3(最大震度3)の地震があった。

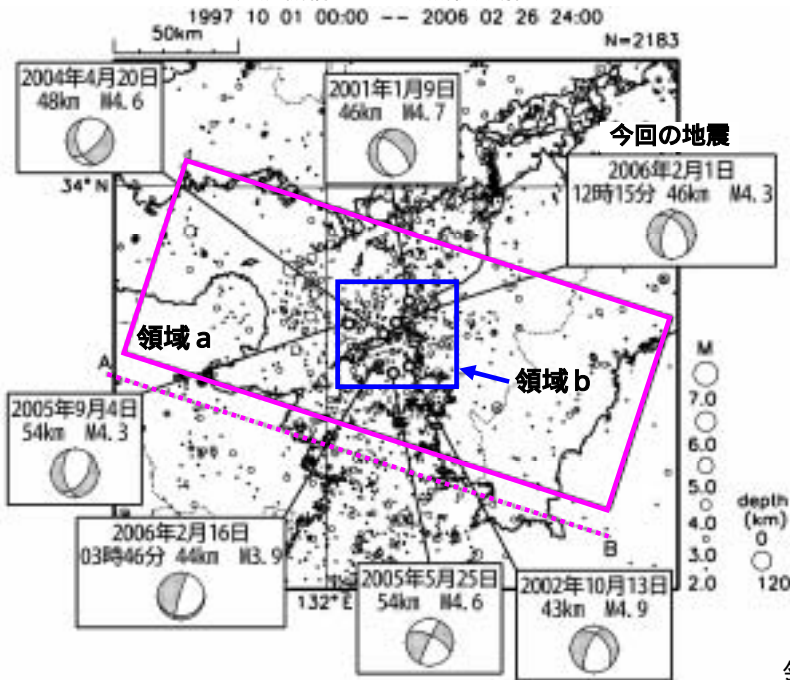
(上記期間外)

3月2日23時28分に和歌山県北部でM4.1(最大震度3)の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

2月1日 伊予灘の地震

A 震央分布図 (1997年10月以降、M 2.0)
発震機構は全てP波初動解

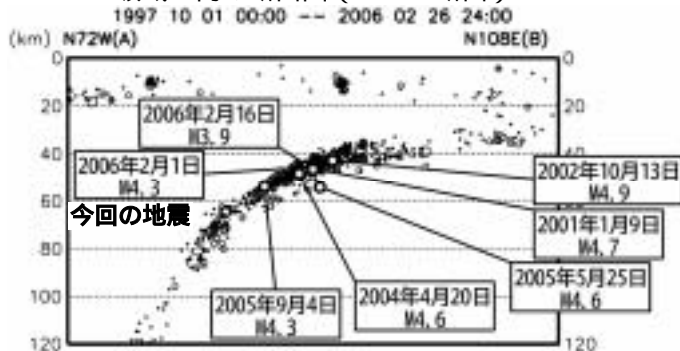


2006年2月1日12時15分に伊予灘の深さ46kmでM4.3(最大震度3)の地震が発生した。発震機構は東西方向に張力軸を持つ正断層型で、フィリピン海プレート内部の地震である。M1.0程度のごく小さな余震が数回観測された。

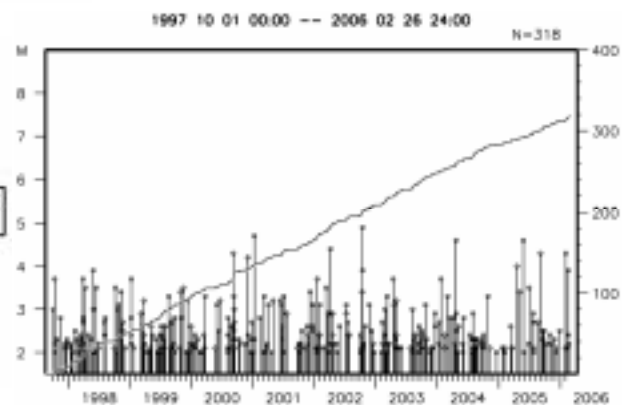
また、この地震の南東約20kmのところ(豊後水道)で、2月16日にM3.9(最大震度2)の地震が発生した。

今回の地震の震源付近では、M4~5程度の地震が時々発生しており、最近では2005年9月4日にM4.3(最大震度3)の地震が発生している。(A)

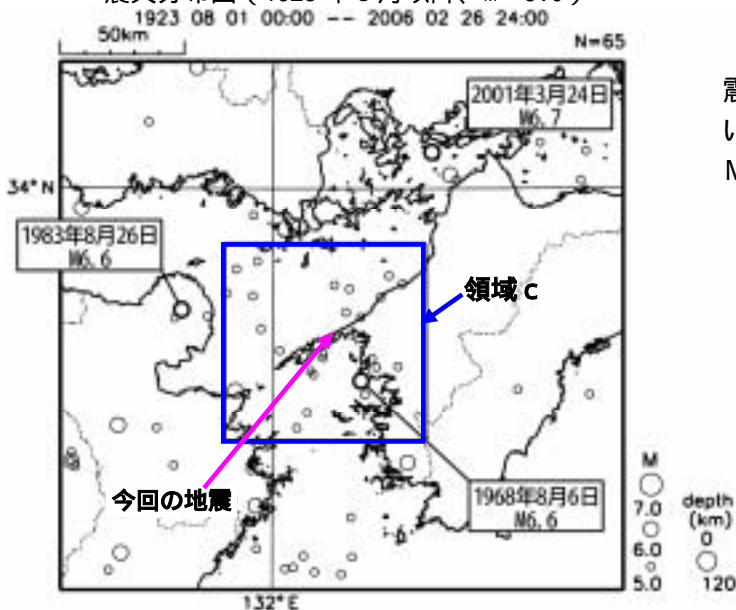
領域a内の断面図 (A-B断面)



領域b内の地震活動経過図、回数積算図

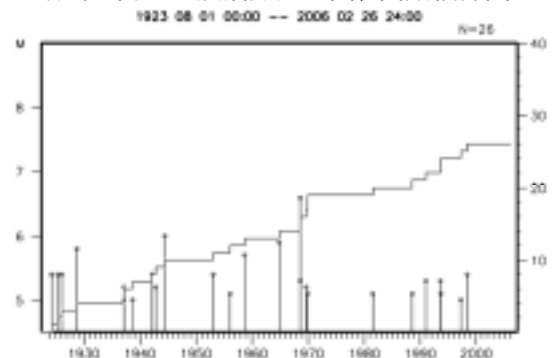


B 震央分布図 (1923年8月以降、M 5.0)

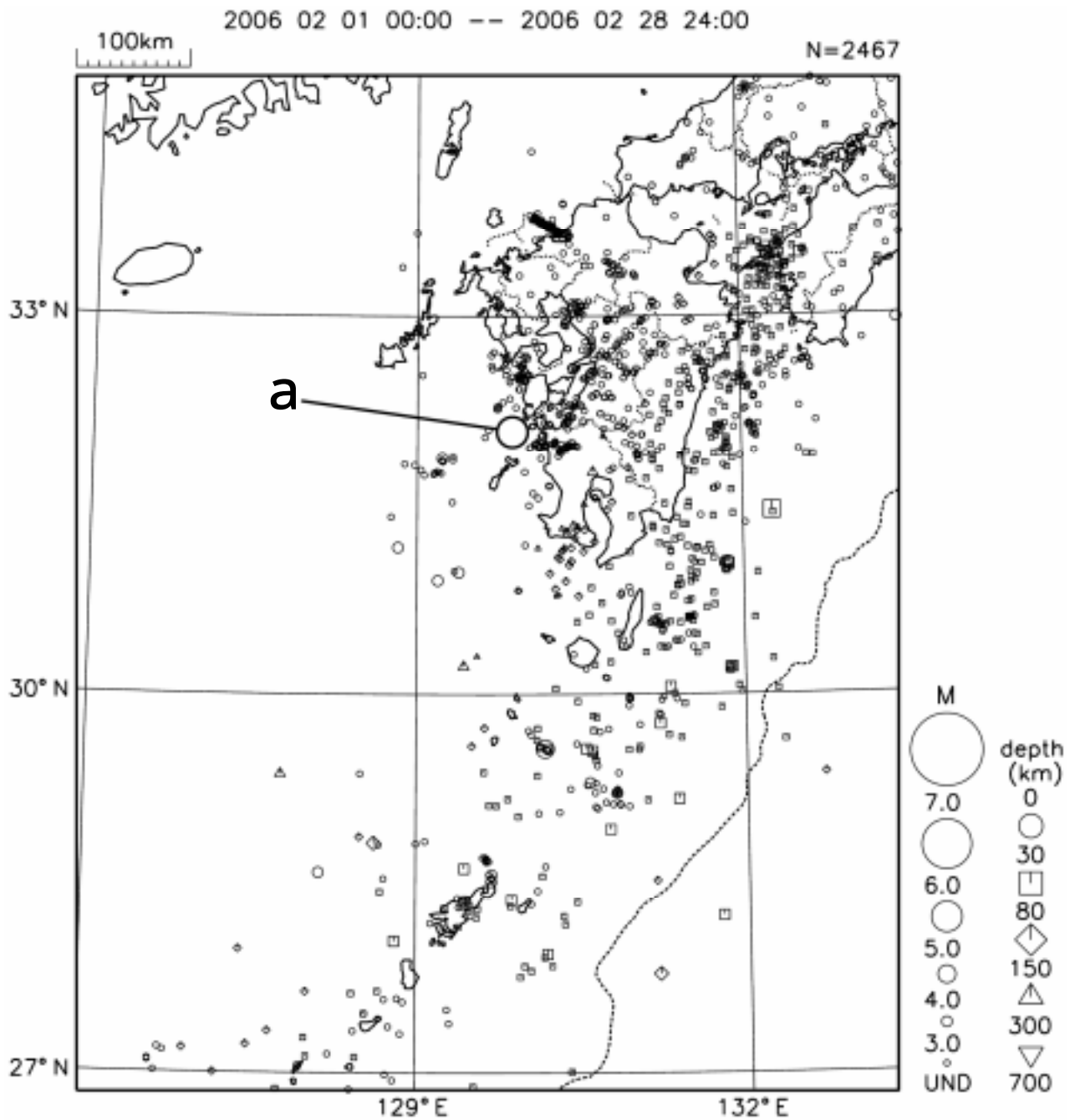


1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の付近では、M6前後の地震が数回発生しているが、1968年8月6日のM6.6の地震以降、M6クラスの地震は発生していない。(B)

領域c内の地震活動経過図、回数積算図



九州地方

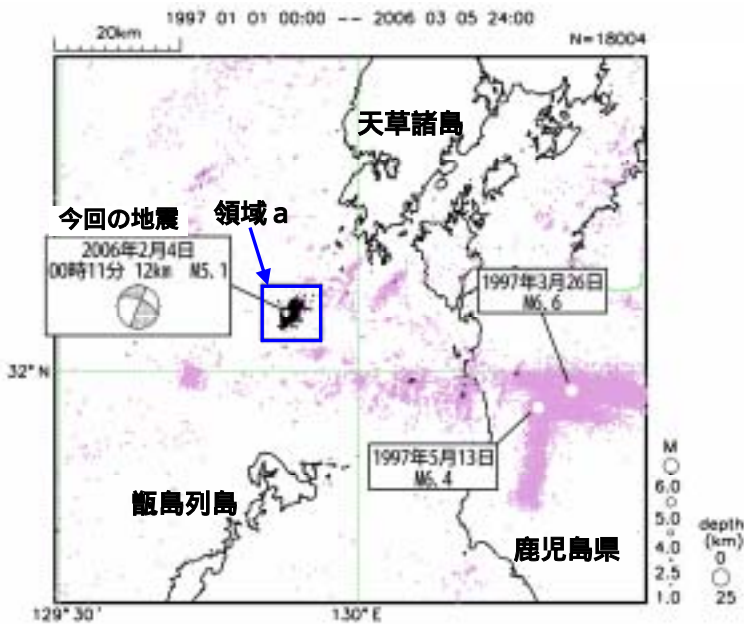


a) 2月4日00時11分に天草灘でM5.1(最大震度4)の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

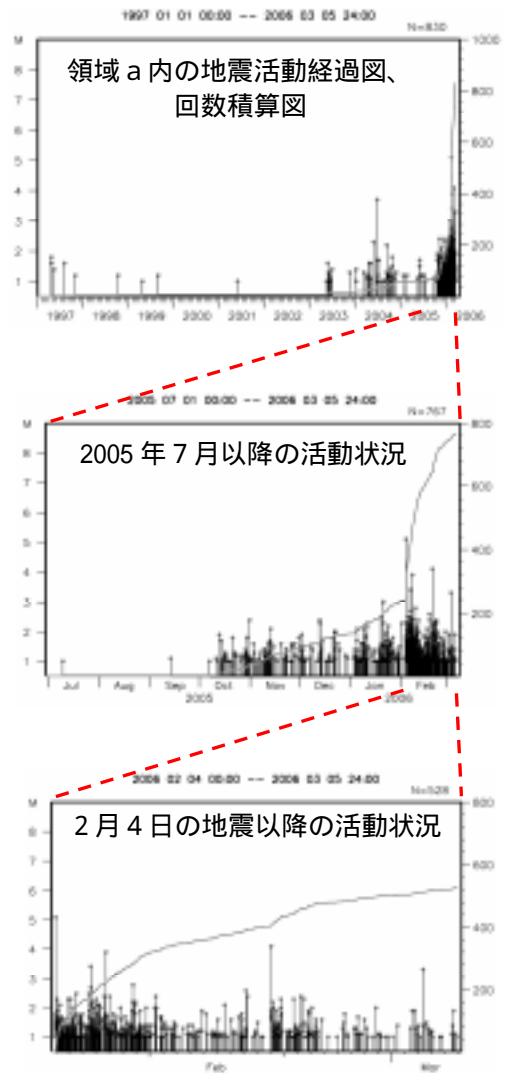
2月4日 天草灘の地震

A 震央分布図 (1997年以降、M 1.0)

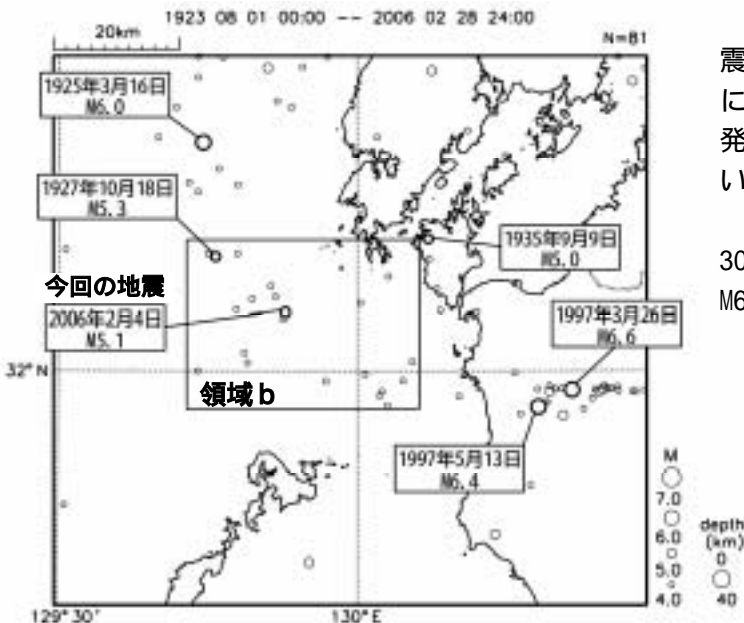


2006年2月4日以降を濃くプロットしてある

2月4日00時11分に天草灘の深さ12kmでM5.1 (最大震度4)の地震が発生した。発震機構は北北西-南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であった。今回の地震の震源付近では、2005年10月中旬頃から小規模な地震活動が続いていた。今回の地震の後も活動は続いている。(A)

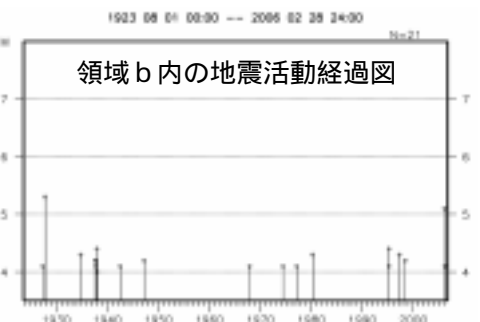


B 震央分布図 (1923年8月以降、M 4.0)

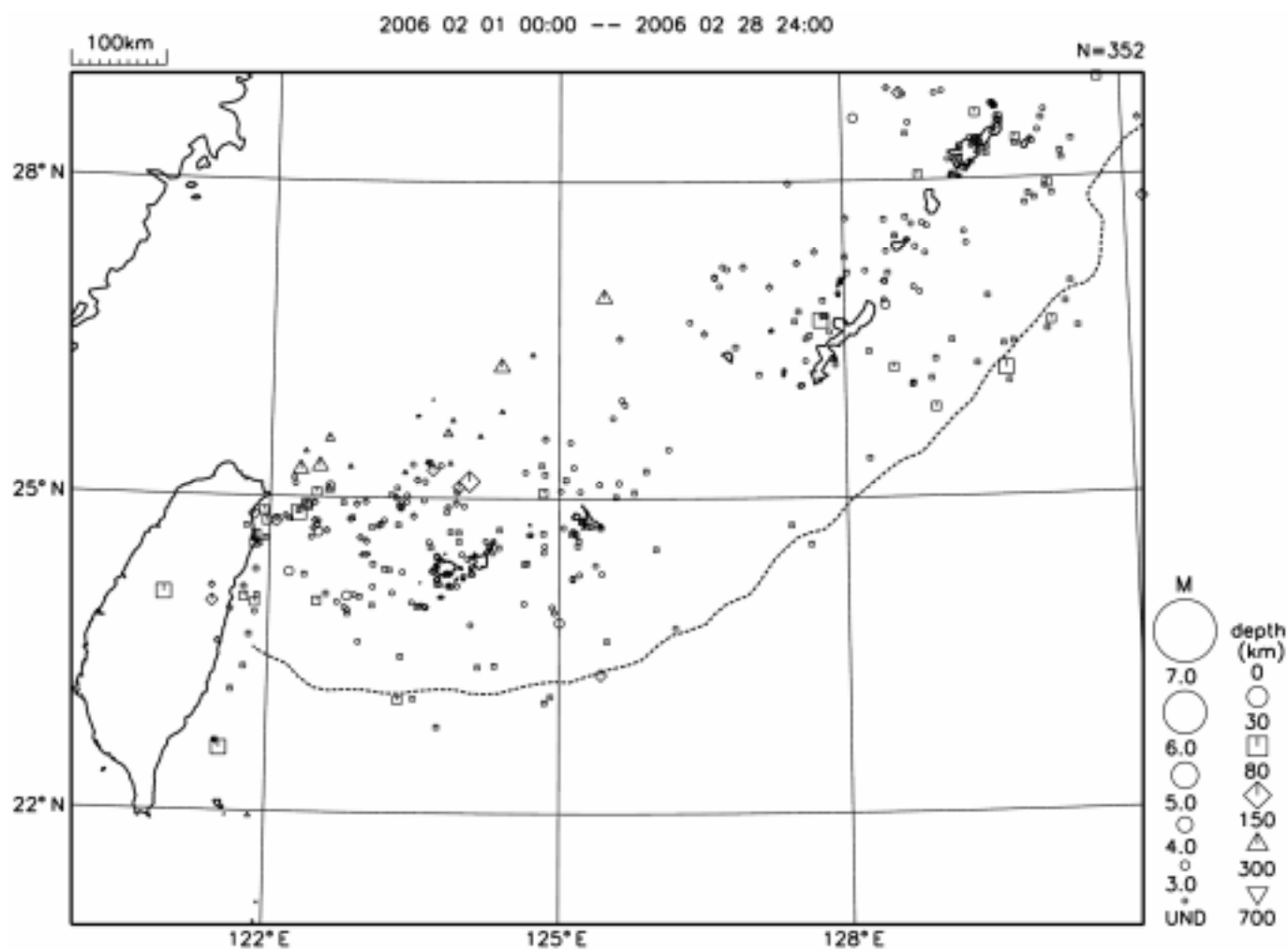


1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近の海域では、1927年10月18日にM5.3の地震が発生して以降、今回の地震が発生するまでM5.0を超える地震は観測されていなかった。

なお、今回の地震の震央から北北西方向に約30km離れたところでは1925年3月16日にM6.0の地震が発生している。(B)



沖縄地方

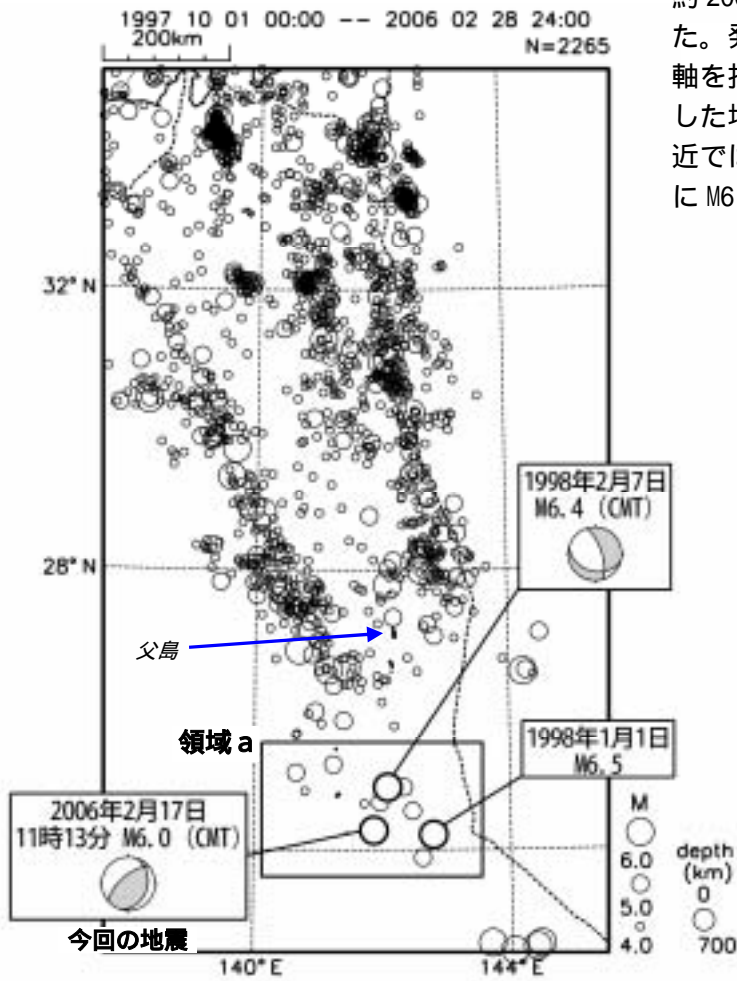


特に目立った活動はなかった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

2月17日 父島近海の地震

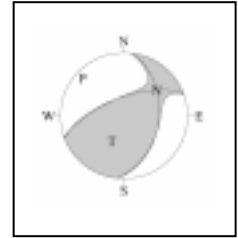
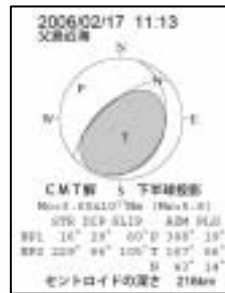
A 震央分布図 (1997年10月以降、M 4.0)



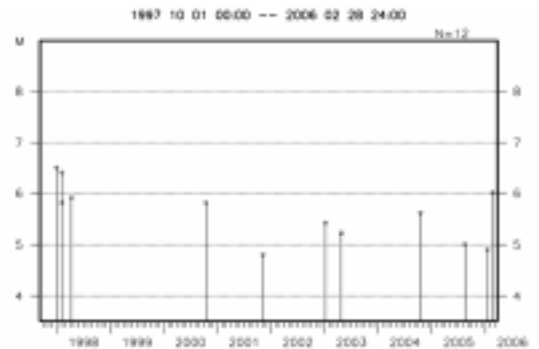
2006年2月17日11時13分に父島近海の深さ約200kmでM6.0(最大震度1)の地震が発生した。発震機構(CMT解)は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。今回の地震の震源付近では、最近では1998年1月1日にM6.5、1998年2月7日にM6.4の地震が発生している。(A)

今回の地震の発震機構

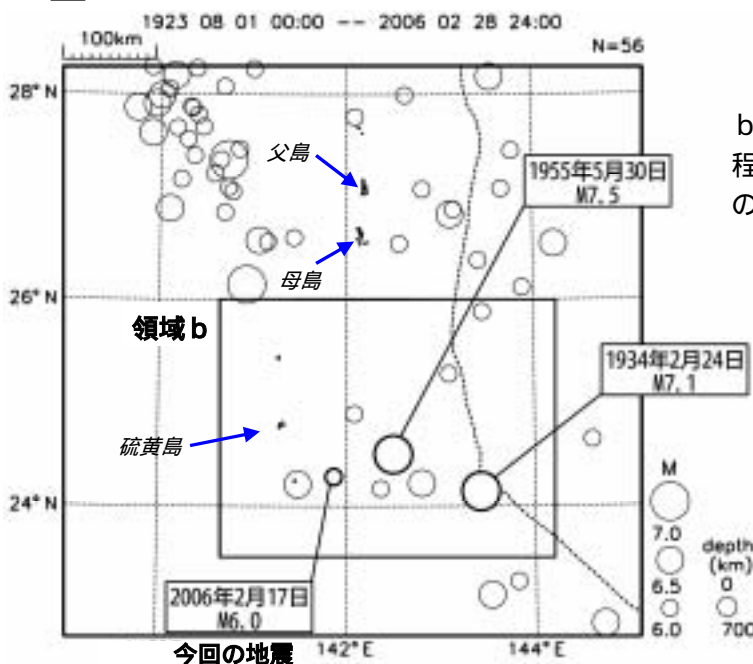
(気象庁CMT解) (ハーバード大学によるCMT解)



領域 a 内の地震活動経過図

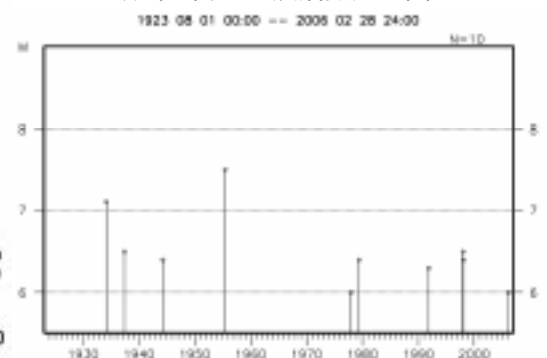


B 震央分布図 (1923年8月以降、M 6.0)



1923年以降、今回の地震の震央付近(領域b)ではM6.0以上の地震が10年に1~2回程度発生している。最大は1955年5月30日のM7.5の地震である。(B)

領域 b 内の地震活動経過図



東海地震の想定震源域及びその周辺の地震活動

[概況]

岐阜県美濃中西部の深さ 14km および 13km で、M4.4 と M4.1 (ともに最大震度 4) の地震が発生した。2月21日頃から伊豆半島東方沖でまとまった活動があった。

[地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果]

2月27日に気象庁において第238回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会(定例会)を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表した(図2~3)

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖直下で通常より活動レベルの低い状態が続いていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

東海地域及びその周辺における、プレート境界のゆっくり滑りに起因すると思われる長期的な地殻変動は、最近では小さくなっているように見えます。

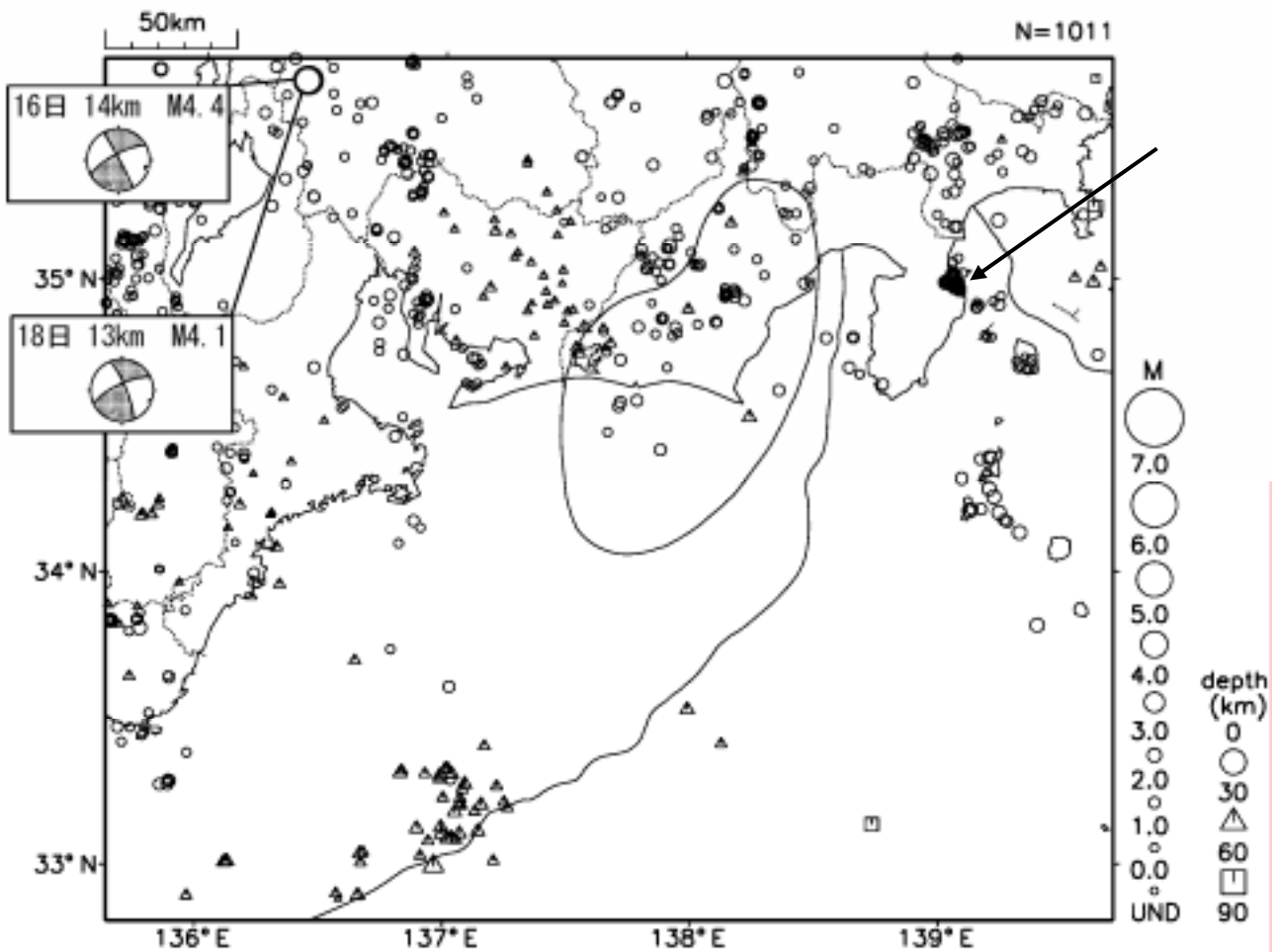


図1 震央分布図(2006年2月1日~28日:深さ90km以浅、Mすべて。M3.0以上の地震(東海道沖はM4.0以上)に「日、深さ、M」を付けた。すぐ下の図はP波初動による発震機構(下半球投影)。図中のなすび型の領域は東海地震の想定震源域。)

16日23時10分、岐阜県美濃中西部の深さ14kmでM4.4の地震があり、最大震度4を観測した。発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、陸域の地殻内で発生した地震である。(p**を参照)
18日16時21分、岐阜県美濃中西部の深さ

13kmでM4.1の地震があり、最大震度4を観測した。発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、陸域の地殻内で発生した地震である。(p**を参照)
19日頃から伊豆半島東方沖で小規模な地震活動が始まり、21日から多発し始めた。また、

東伊豆の気象庁体積歪計で 8×10^{-8} 程度の縮み変化が観測された。一連の活動は3月2日に収まった。最大は25日10時22分に発生したM2.8の地震であり、最大震度2を観測した。(p**を参照)

注：本文中の番号は、図1中の数字に対応する。

[東海地域の地震活動の頁で使われる用語]

・「想定震源域」(図1)と「固着域」(図2)

東海地震発生時には、「固着域」(プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域)あるいはその周辺の一部からゆっくりしたずれ(前兆すべり)が始まり、最終的には「想定震源域」全体が破壊すると考えられている。

・「クラスタ除去」(図2, 3)

地震は時間空間的に群(クラスタ: cluster)をなして起きることが多くある。「本震とその後起きる余震」、「群発地震」などが典型的な群(クラスタ)で、余震活動等の影響を取り除いて地震活動全体の推移を見ることを「クラスタ除去」と言う。震央距離が3km以内、発生時間差が7日以内の地震をクラスタと見なし、最大地震で代表させている。

・東海地域の地震活動

大規模な地震から国民の生命・財産を保護することを目的として、昭和53年(1978年)12月に施行された「大規模地震対策特別措置法」では、大規模な地震の発生のおそれがあり、その地震によって大きな被害が予想されるような地域をあらかじめ「地震防災対策強化地域(以下、「強化地域」という。)として指定し、地震予知のための観測施設の整備を強化し、あらかじめ地震防災に関する計画をたてる等、各種の措置を講じることとしている。強化地域は平成14年(2002年)4月に見直しが行われ、現在、静岡県全域と東京都、神奈川・山梨・長野・岐阜・愛知及び三重の各県にまたがる216市町村(平成17年4月現在)が強化地域に指定されている。強化地域では、マグニチュード8クラスと想定されている大地震(東海地震)が起こった場合、震度6弱以上(一部地域では震度5強程度)になり、沿岸では大津波の来襲が予想されている。気象庁では東海地震の直前の前兆現象を捕らえるため、地震、地殻変動等の観測データを常時監視している。

東海地域の地震活動指数

(クラスタを除いた地震回数による)

2006年2月22日 現在

	① 固着域		② 愛知県		③ 浜名湖			④ 駿河湾
	地殻内	フィリ ピン海 プレート	地殻内	フィリ ピン海 プレート	フィリピン海プレート内			全域
					西側	全域	東側	
短期活動指数	6	5	5	1	4	2	2	4
短期地震回数 (平均)	9 (6.18)	7 (5.83)	5 (4.37)	6 (12.63)	1 (2.38)	2 (6.08)	1 (3.70)	6 (6.18)
中期活動指数	8	4	7	2	4	2	1	6
中期地震回数 (平均)	30 (18.53)	17 (17.50)	19 (13.11)	30 (37.90)	5 (4.76)	7 (12.15)	2 (7.39)	16 (12.37)

* Mしきい値:

$M \geq 1.1$: 固着域、愛知県、浜名湖、 $M \geq 1.4$: 駿河湾

* クラスタ除去:

震央距離が Δr 以内、発生時間差が Δt 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

$\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7$ 日: 固着域、愛知県、浜名湖

$\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10$ 日: 駿河湾

* 対象期間:

短期: 30日間 (固着域、愛知県)、90日間 (浜名湖、駿河湾)

中期: 90日間 (固着域、愛知県)、180日間 (浜名湖、駿河湾)

* 基準期間:

1997年—2001年 (5年間): 固着域、愛知県、1998年—2000年 (3年間): 浜名湖

1991年—2000年 (10年間): 駿河湾

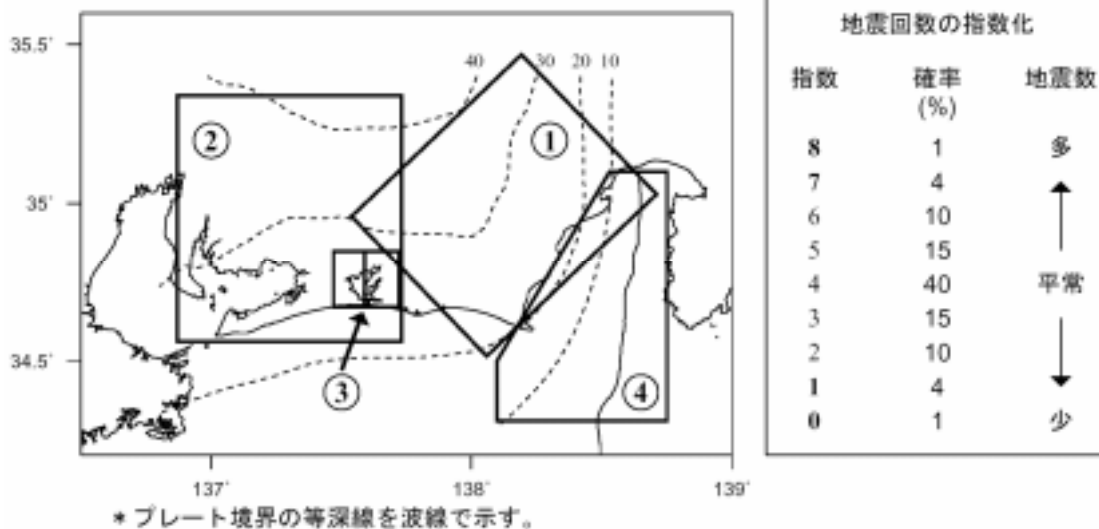


図2 東海地域の地震活動指数

浜名湖全域および東側は、活動指数の低い状態が継続している。固着域および愛知県の地殻内は、活動指数が高い。愛知県のフィリピン海プレート内は、活動指数が低い。それ以外の地域は平常の活動であった。

浜名湖（フィリピン海プレート内）

1995/1/1~2006/2/22 M \geq 1.1 *クラスタ除去したデータ

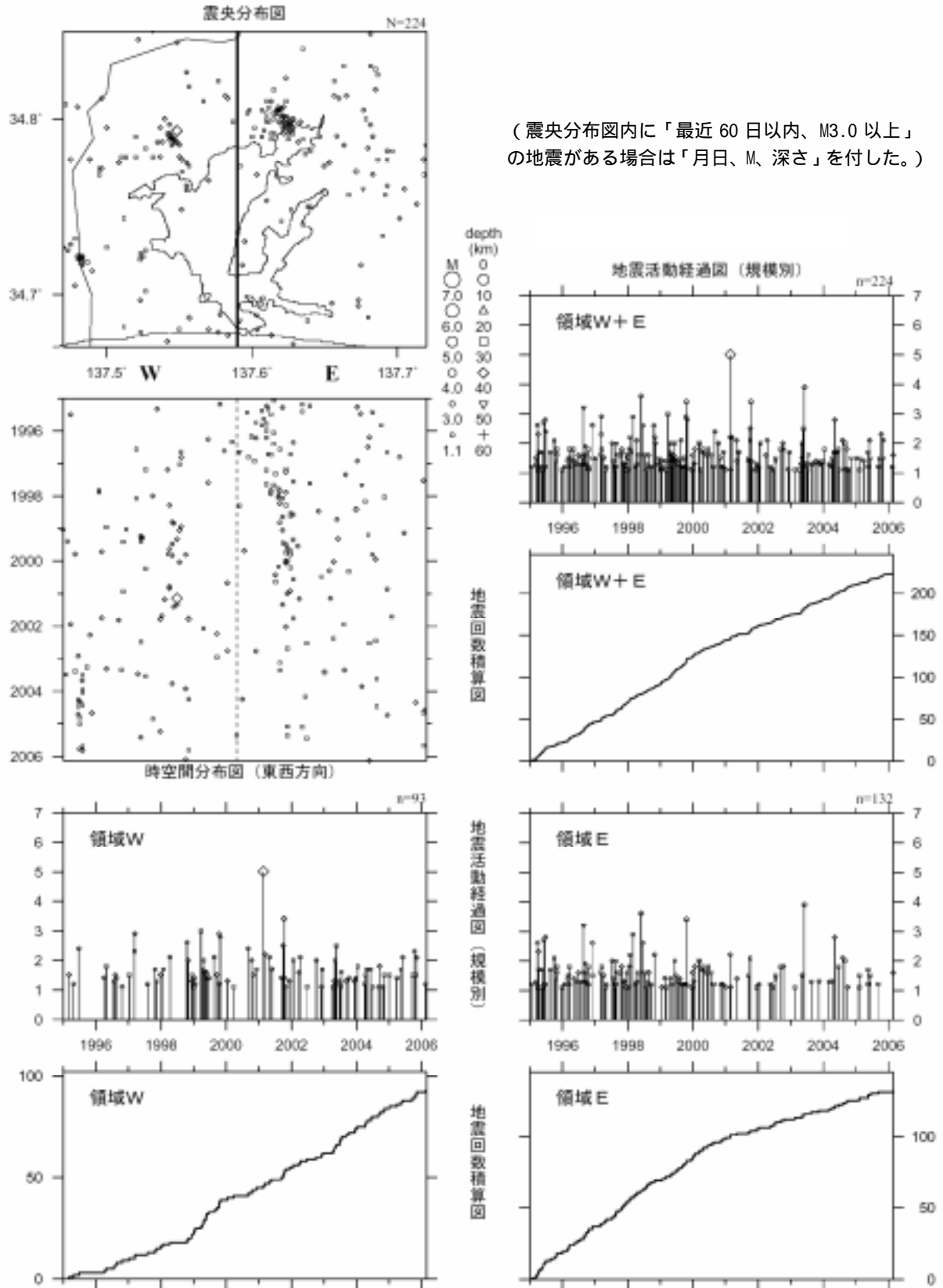


図3 浜名湖付近のフィリピン海プレート内の地震活動

領域Eでは2000年終わりごろからの活動の低下が継続している。領域Wでは、2003年半ばから継続していた静岡・愛知県境付近の活動が低下している。

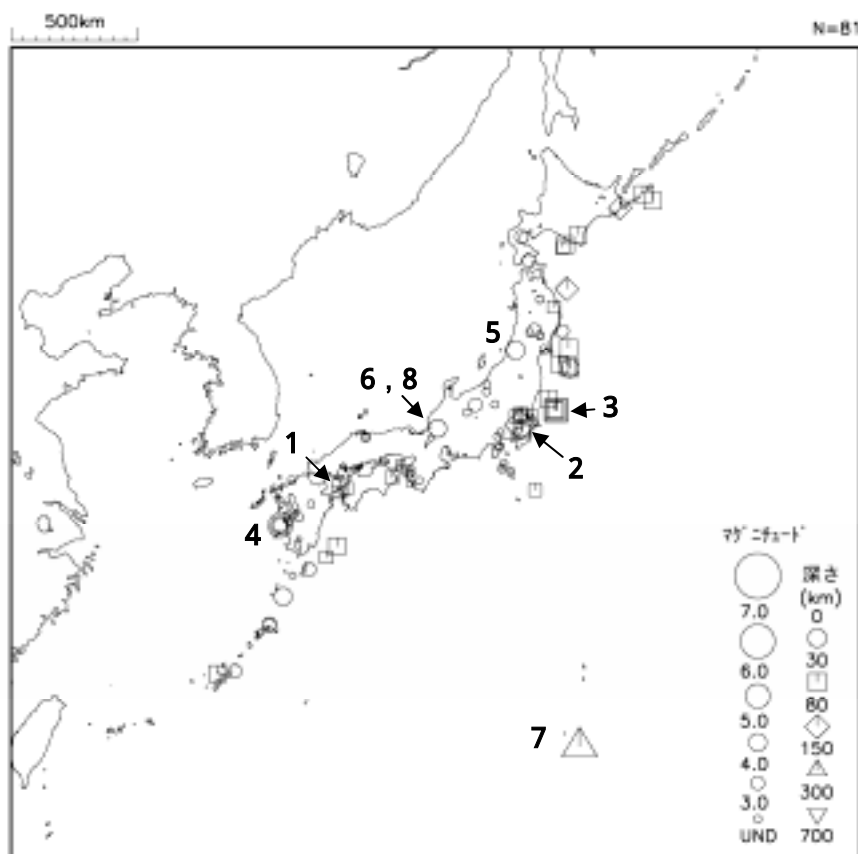


図1 2006年2月に震度1以上を観測した地震
(図中の番号は、表のNoに対応する地震)

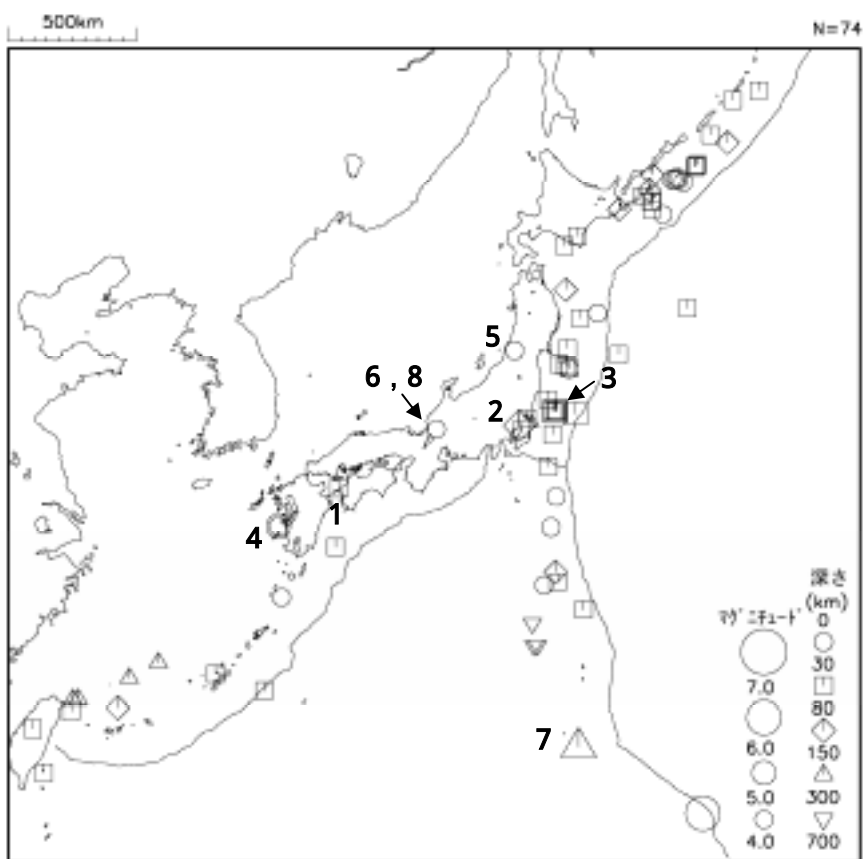


図2 2006年2月に発生したM4.0以上の地震
(図中の番号は、表のNoに対応する地震)

総数：8,740

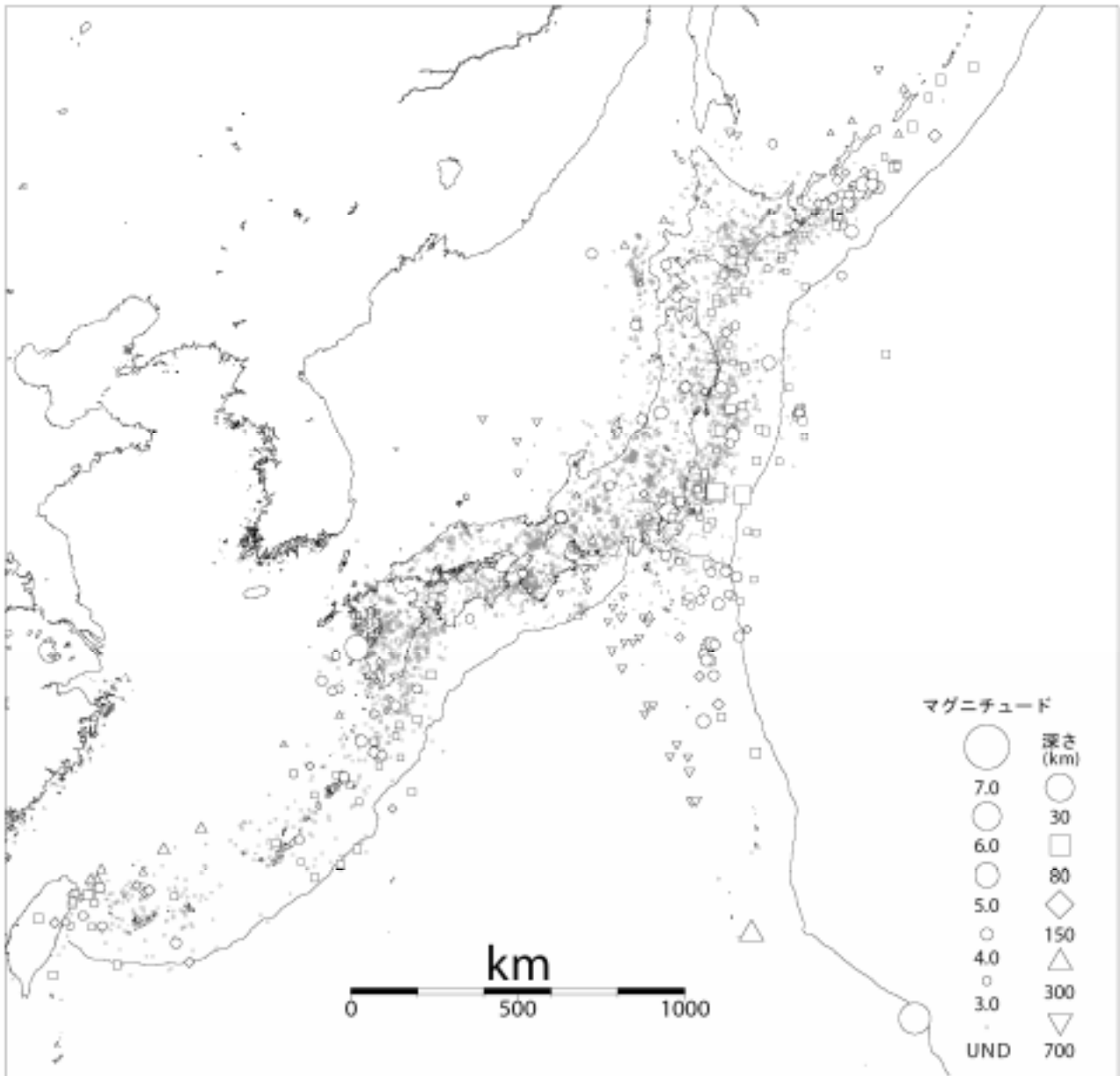


図3 気象庁が震源を決定した日本付近の2006年2月の地震の震央分布
(M3.0以上の地震については白抜きで示す)

表 1 . 過去 1 年間に震度 1 以上を観測した地震の最大震度別の月別回数
<平成 17 年(2005 年) 2 月 ~ 平成 18 年(2006 年) 2 月>

	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	記事
2006年 2月	44	30	3	4						81	
2006年 1月	61	20	4	1						86	
2005年12月	58	28	10	3						99	
2005年11月	47	23	8	2						80	
2005年10月	57	24	7	2	1					91	19日 茨城県沖(震度5弱)
2005年 9月	59	27	5	1						92	
2005年 8月	89	29	8	1		1	1			129	16日 宮城県沖(震度6弱:1回、 震度2:3回、震度1:11回) 21日 新潟県中越地方(震度5強)
2005年 7月	81	31	11	4		1				128	23日 千葉県北西部(震度5強)
2005年 6月	81	44	8	3	2					138	3日 熊本県天草芦北地方(震度5弱) 20日 新潟県中越地方(震度5弱) 福岡県西方沖の地震の余震 (震度2:3回、震度1:14回)
2005年 5月	82	34	13	5						134	福岡県西方沖の地震の余震 (震度4:1回、震度2:7回、 震度1:15回)
2005年 4月	119	53	13	7		2				194	11日 千葉県北東部(震度5強) 福岡県西方沖の地震の余震 (震度5強:1回、 震度4:5回、震度3:9回、 震度2:26回、震度1:45回)
2005年 3月	231	129	25	3			1			389	20日 福岡県西方沖(震度6弱:1回、 震度4:1回、震度3:14回、 震度2:82回、震度1:152回) 新潟県中越地震の余震 (震度3:4回、震度2:7回、 震度1:6回)
2005年 2月	65	26	8	2	1					102	16日 茨城県南部(震度5弱) 新潟県中越地震の余震 (震度3:2回、震度2:4回、 震度1:7回)
2006年計	105	50	7	5						167	(平成18年1月~平成18年2月)
過去1年計	1009	472	115	36	3	4	2			1641	(平成17年3月~平成18年2月)

注) 「記事」欄の「*」は関連の地震で震度1以上を観測した地震の回数。「記事」欄には主に震度5弱以上を観測した地震、または震度1以上を10回以上観測した地震活動について記載した。

地方公共団体等の震度計による震度の発表開始年月日。

平成9(1997)年11月10日 秋田県、埼玉県、横浜市(神奈川県)、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県

平成10(1998)年6月15日 群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県、愛媛県

10月15日 青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、
宮崎県、鹿児島県

平成11(1999)年7月21日 東京都、長野県

平成12(2000)年1月12日 栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市(愛知県)

3月28日 滋賀県

7月18日 富山県、香川県、大分県

平成13(2001)年3月22日 佐賀県 5月10日 山梨県、川崎市(神奈川県)

7月19日 高知県 12月12日 福島県

平成14(2002)年3月20日 岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市(宮城県)

7月29日 北海道、長崎県

平成15(2003)年3月10日 沖縄県

平成16(2004)年5月26日 独立行政法人防災科学技術研究所

表 2 . 日本及びその周辺におけるマグニチュード (M)別の月別地震回数
 <平成 17 年 (2005 年) 2 月 ~ 平成 18 年 (2006 年) 2 月>

	M3.0 ~ M3.9	M4.0 ~ M4.9	M5.0 ~ M5.9	M6.0 ~ M6.9	M7.0 以上	計 M3.0以上	計 M4.0以上	記事
2006年 2月	251	66	6	2		325	74	15日：マリアナ諸島近海 (M6.6) 17日：父島近海 (M6.0)
2006年 1月	264	53	4			321	57	
2005年12月	363	81	11	3		458	95	2日：宮城県沖 (M6.6) 4日：奄美大島近海 (M6.1) 奄美大島近海の地震の余震 (M3.0~3.9: 45回、M4.0~4.9: 7回、 M5.0~5.9: 3回) 17日：宮城県沖 (M6.1) 三陸沖の地震の余震 (M3.0~3.9: 64回、M4.0~4.9: 4回)
2005年11月	537	93	8	1	1	640	103	15日：三陸沖 (M7.2) 三陸沖の地震の余震 (M3.0~3.9: 277回、M4.0~4.9: 27回) 22日：種子島近海 (M6.0)
2005年10月	309	67	8	4		388	79	15日：千島列島東方 (M6.4) 16日：与那国島近海 (M6.5) 19日：茨城県沖 (M6.3) 23日：日本海中部 (M6.1)
2005年 9月	294	65	6	2		367	73	6日：台湾付近 (M6.0) 21日：国後島付近 (M6.0)
2005年 8月	453	92	10	2	1	558	105	16日：宮城県沖 (M7.2) (M3.0~3.9: 38回、M4.0~4.9: 10回、 M5.0以上は本震の 1回) 三陸沖の地震活動 (M3.0~3.9: 43回、M4.0~4.9: 13回、 M5.0~5.9: 2回、M6.0~6.9: 2回) 八丈島東方沖の地震活動 (M3.0~3.9: 94回、M4.0~4.9: 7回、 M5.0~5.9: 1回)
2005年 7月	378	98	15	1		492	114	23日：千葉県北西部 (M6.0) 八丈島東方沖の地震活動 (M3.0~3.9: 124回、M4.0~4.9: 40回、 M5.0~5.9: 6回)
2005年 6月	271	75	9			355	84	
2005年 5月	271	64	12			347	76	福岡県西方沖の地震の余震 (M3.0~3.9: 10回、M5.0~5.9: 1回)
2005年 4月	354	66	7	2		429	75	11日：千葉県北東部 (M6.1) 19日：鳥島近海 (M6.0) 福岡県西方沖の地震の余震 (M3.0~3.9: 38回、M4.0~4.9: 8回、 M5.0~5.9: 3回)
2005年 3月	592	88	6	1	1	688	96	6日：台湾付近 (M6.2) 20日：福岡県西方沖 (M7.0) 福岡県西方沖の地震の余震 (M3.0~3.9: 188回、M4.0~4.9: 16回、 M5.0~5.9: 1回) 房総半島南東沖の地震活動 (M3.0~3.9: 103回、M4.0~4.9: 6回)
2005年 2月	308	56	11	1		376	68	10日：父島近海 (M6.5) 新潟県中越地震の余震活動 (M3.0~3.9: 6回、M4.0~4.9: 2回) 房総半島南東沖の地震の余震 (M3.0~3.9: 31回、M4.0~4.9: 2回、 M5.0~5.9: 1回)
2006年計	515	119	10	2		646	131	(平成18年 1月 ~ 平成18年 2月)
過去 1年計	4337	908	102	18	3	5368	1031	(平成17年 3月 ~ 平成18年 2月)

注)日本及びその周辺：原則、北緯20~49度、東経120~153度の範囲。「記事」欄には主にM6.0以上の地震について記載した。

世界の主な地震

2月に世界で発生したマグニチュード(M)6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震源要素等を表1に示す。

2006年2月1日00時～2月28日24時(日本時間)

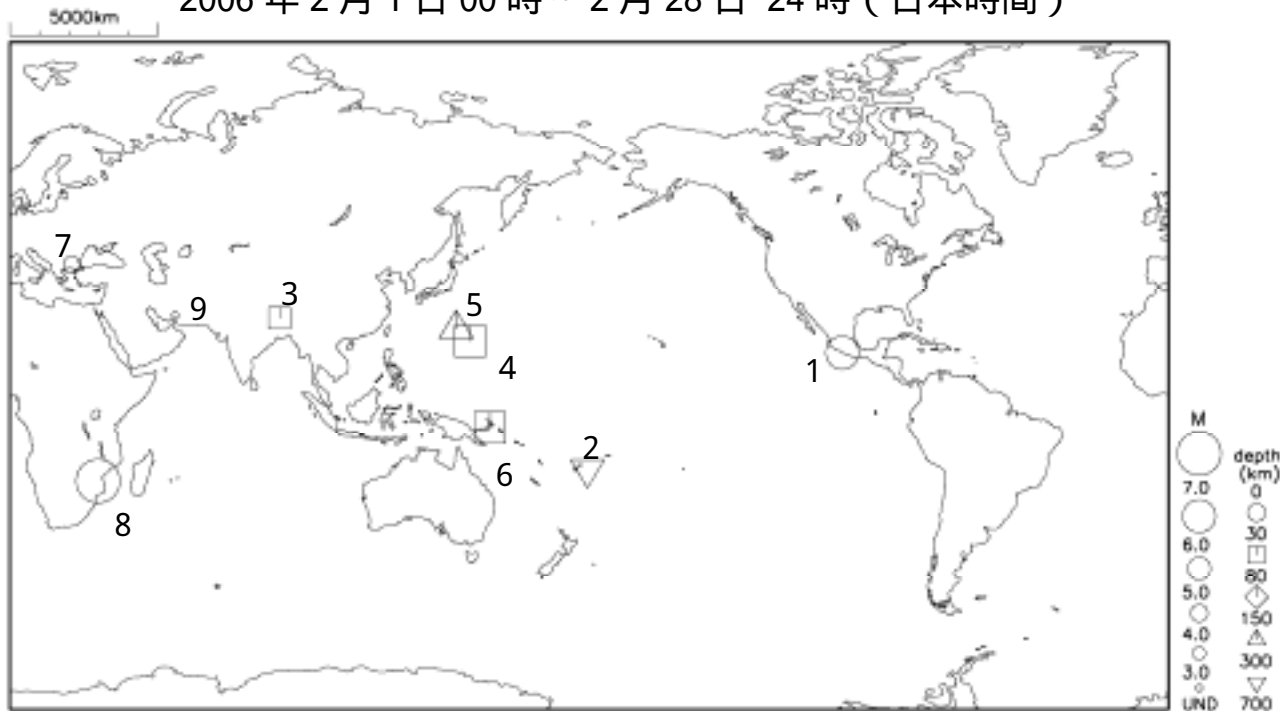


図1 2006年2月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震央分布
 <震源要素は米国地質調査所(USGS)発表のQUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による>

* : 数字は、表1の番号に対応する。

** : マグニチュードはmb(実体波マグニチュード)、Ms(表面波マグニチュード)のいずれか大きい値を用いて表示している。

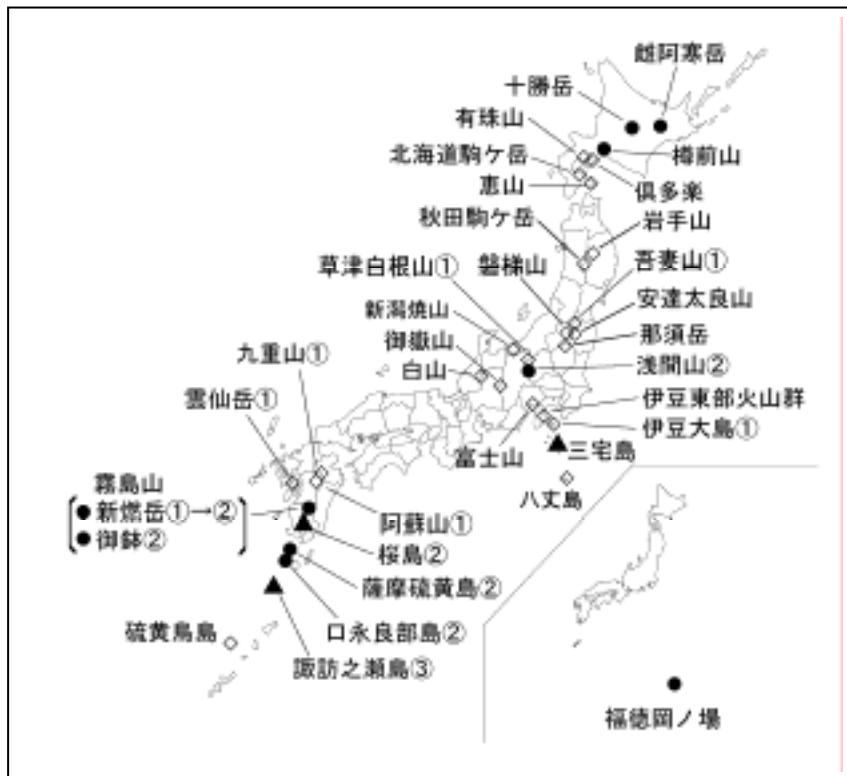
表1 2006年2月に世界で発生したマグニチュード6.0以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	月日時分	緯度	経度	深さ(km)	mb	Ms	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)
1	02月01日06時33分	N17° 19.6'	W101° 13.8'	26	6.0			メキシコ、ゲレロ州沿岸付近	
2	02月02日21時48分	S17° 44.9'	W178° 23.2'	598	6.0		6.7	フィジー諸島付近	
3	02月14日09時55分	N27° 21.0'	E 88° 21.3'	30	5.6	4.8		インド、シッキム地方	死者2名、負傷者2名
4	02月15日00時27分	N21° 39.0'	E146° 24.6'	40		(6.2)		マリアナ諸島付近	
5	02月17日11時13分	N24° 16.8'	E141° 52.2'	196		(6.0)		父島近海	
6	02月19日00時59分	S 5° 11.8'	E152° 05.4'	49	5.9	6.2	6.2	パプアニューギニア ニューブリテン島	
7	02月21日02時20分	N41° 42.4'	E 25° 32.6'	10*	4.6			ギリシャ-ブルガリア国境	負傷者2名、建物小被害175棟以上
8	02月23日07時19分	S21° 15.5'	E 33° 28.8'	11*	6.5	7.5	7.0	モザンビーク	死者4名、負傷者27名、建物被害160棟以上(TWI発表)
9	02月28日16時31分	N28° 09.8'	E 56° 51.0'	18*			6.0	イラン南部	建物小被害多数

- ・震源要素、被害状況等は米国地質調査所(USGS)発表のQUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による(2006年3月3日現在)。ただし、日本付近で発生した地震については震源要素及びマグニチュード(Msの欄に括弧を付して記載)は気象庁、被害状況は総務省消防庁による。
- ・時分は震源時で日本時間[日本時間=協定世界時+9時間]である。
- ・MwはUSGSのモーメントマグニチュードである。
- ・震源の深さに「*」が付いているのは、USGSが推定した深さである。
- ・TWIは、気象庁がインド洋沿岸諸国に暫定提供しているインド洋津波監視情報である(地震・火山月報(防災編)2005年5月号参照)。

平成 18 年 2 月の主な火山活動

記事を掲載した火山



注 1 本資料で示すレベルは、火山活動度レベルを導入した火山におけるレベルである。

注 2 記号の意味

- ：噴火した火山
 - ：活動が活発もしくはやや活発な状態にあった火山
 - △：その他記事を掲載した火山
- 等丸付き数字：火山活動度レベル

注 3 火山名に下線を引いた火山について、説明資料（火山活動解説資料）を配布。

【噴火した火山】

三宅島 【やや活発な状況】

17日にごく小規模な噴火が発生し、山麓でごく微量の降灰があった。噴火が観測されたのは2005年5月のごく小規模な噴火以来である。山頂火口の噴煙活動は引き続き活発で、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も1日あたり2千～5千トン程度と依然として多い状態が続いている。

桜島 【比較的静穏な噴火活動（レベル2）】

期間中、爆発的噴火が3回観測されたが、桜島としては比較的静穏な噴火活動が続いている。鹿児島地方气象台（南岳の西南西約11km）で降灰は観測されなかった。GPSによる地殻変動観測では長期的な東西方向のわずかな伸びが続いている。

諏訪之瀬島 【活発な状況（レベル3）】

6～9日及び23日に小規模な爆発的噴火が多発し、6～9日には187回、23日には41回観測された（月回数は241回）。これらの日を含め、噴火が観測された日が14日間あり（1日、6～10日、13日、15～18日、22～24日）、23日及び24日には集落（御岳の南南西約4km）で降灰があった。

【活動が活発もしくはやや活発な状態であった火山】

雌阿寒岳 【やや活発な状況】

18～19日に火山性地震が多発し、その後もやや多い状態が続いている。振幅の小さな火山性微動も18～20日に時々観測された。

十勝岳 【やや活発な状況】

62-2火口は噴煙活動が活発で、高温の状態が続いていると推定される。3日及び14日に

火山性微動が観測され、3日は振幅のやや大きなものであった。

樽前山 【やや活発な状況】

A火口及びB噴気孔群の高温状態が続いていると推定される。

浅間山 【やや活発な状況（レベル2）】

上旬まで火山性地震の多い状態が続き、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量もやや多く、微弱な火映も観測された。火山性地震はその後やや多い状態が続いている。また、火山性微動もやや多い状態が続いている。

福徳岡ノ場 【やや活発な状況】

23日に海上保安庁が行った上空からの観測で、火山活動によるとみられる変色水が確認された。17日に海上自衛隊が行った上空からの観測では、変色水は確認されなかった。

霧島山（新燃岳） 【やや活発な状況（レベル2）】 2月1日に静穏な状況（レベル1）から引き上げ】

2月1日に振幅のやや大きな火山性微動が観測された。火山活動はやや活発な状態になっていると判断し、同日レベルを1（静穏な火山活動）から2（やや活発な火山活動）に引き上げた。新燃岳付近で振幅のやや大きな火山性微動が観測されたのは2001年10月以来である。その後、火山性地震のやや多い状態が続いている。

霧島山（御鉢） 【やや活発な状況（レベル2）】

御鉢火口の噴気活動は依然としてやや活発な状態が続いており、火口縁を超える噴気が時々観測された。15日に振幅のやや大きな火山性微動（継続時間は1分未満）が観測された。

薩摩硫黄島 【やや活発な状況（レベル2）】

噴煙活動のやや活発な状態が続いている。

口永良部島 【やや活発な状況（レベル2）】

火山性地震のやや多い状態が続いている。

【静穏な状況であったが、観測データに変化がみられた火山】

伊豆東部火山群

21～25日に伊東市周辺で地震が一時的にやや増加し、わずかな地殻変動も観測された。同様の活動は過去にもしばしばみられており、火山活動には特段の変化はみられていない。

伊豆大島（レベル1）

4～5日に島の東部で地震が一時的にやや増加した。

【その他の静穏な状況であった火山】

（北海道地方）

倶多楽、有珠山、北海道駒ヶ岳、恵山

（東北地方）

岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山（レベル1）、安達太良山、磐梯山

（関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島）

那須岳、草津白根山（レベル1）、新瀧焼山、御嶽山、白山、富士山、八丈島

（九州地方）

九重山（レベル1）、阿蘇山（レベル1）、雲仙岳（レベル1）

（沖縄地方）

硫黄島

過去1年間の火山活動の状況

火 山 名		平成17年(2005年)										平成18年		
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
雌阿寒岳	活動													
十勝岳	活動													
樽前山	活動													
吾妻山	活動													
	レベル													
草津白根山	活動													
	レベル													
浅間山	活動													
	レベル													
伊豆大島	活動													
	レベル													
三宅島	活動													
福德岡ノ場	活動													
九重山	活動													
	レベル													
阿蘇山	活動													
	レベル													
雲仙岳	活動													
	レベル													
霧島山(新燃岳)	活動													
	レベル													
霧島山(御鉢)	活動													
	レベル													
桜島	活動													
	レベル													
薩摩硫黄島	活動													
	レベル													
口永良部島	活動													
	レベル													
諏訪之瀬島	活動													
	レベル													

活動状況(活動)

- : 噴火した火山
- : 活動が活発もしくはやや活発な状態であった火山

火山活動度レベル

- : 小規模な噴火が発生かその可能性
- : やや活発な火山活動
(桜島については、「比較的静穏な噴火活動」)
- : 静穏な火山活動

平成 18 年 2 月の火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
雌阿寒岳	火山観測情報第 1 号	18 日 16:05	18 日 00 時以降、火山性地震が増加。
	火山観測情報第 2 号	19 日 15:10	火山性地震の多い状態継続。19 日に行った上空からの観測結果。
浅間山	火山観測情報第 5 号	3 日 16:00	1 月 27 日～2 月 3 日 15 時の活動状況。30 日の火山ガス観測結果。レベルは 2。
	火山観測情報第 6 号	10 日 16:00	2 月 3 日～10 日 15 時の活動状況。10 日の火山ガス観測結果及び上空からの観測結果。レベルは 2。
	火山観測情報第 7 号	17 日 16:00	2 月 10 日～17 日 15 時の活動状況。レベルは 2。
	火山観測情報第 8 号	24 日 16:00	2 月 17 日～24 日 15 時の活動状況。22 日の火山ガス観測結果。レベルは 2。
三宅島	火山観測情報 第 32～59 号 (1 日 1 回発表)	1 日～28 日 16:30	前日 16 時～当日 16 時の活動状況及び上空の風の予想。
霧島山	火山観測情報第 1 号	1 日 11:50	新燃岳付近で火山性微動が発生、わずかな傾斜変化を観測。新燃岳のレベルを 1 から 2 に引き上げた。御鉢のレベルは 2。
	火山観測情報第 2 号	2 日 13:55	やや活発な火山活動が継続。2 日に行った調査観測結果。新燃岳のレベルは 2。御鉢のレベルも 2。
	火山観測情報第 3 号	6 日 14:00	2 日～6 日 13 時の火山性地震及び火山性微動の状況。レベルは新燃岳、御鉢共に 2。
	火山観測情報第 4 号	13 日 15:00	2 月 6 日～13 日 14 時の新燃岳の火山性地震及び火山性微動の状況。レベルは新燃岳、御鉢共に 2。
	火山観測情報第 5 号	20 日 15:10	新燃岳の火山性地震及び微動の発生状況。御鉢で 15 日に振幅のやや大きな火山性微動が発生。レベルは新燃岳、御鉢共に 2。
諏訪之瀬島	火山観測情報第 1 号	7 日 11:00	6 日から爆発的噴火が多発している。レベルは 3。
	火山観測情報第 2 号	10 日 15:30	爆発的噴火は 10 日に入り、少なくなっている。レベルは 3。
	火山観測情報第 3 号	23 日 13:40	23 日 10 時頃から爆発的噴火が多発。レベルは 3。
	火山観測情報第 4 号	27 日 11:30	爆発的噴火の発生は少なくなった。レベルは 3。

